

イ 活動見える化プログラムの構築に向けた検証

(ア) ケーススタディの実施

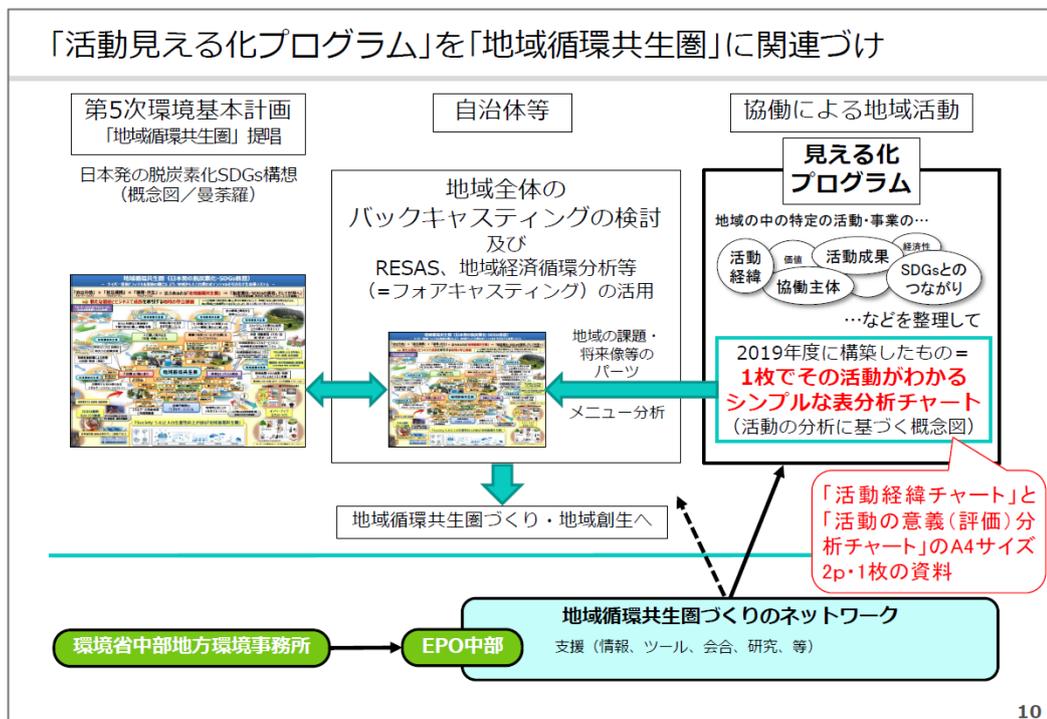
- 協働・ESD・SDGsに関連する活動効果や活動におけるSDGs要素を可視化する活動見える化に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディ（協働コーディネーター参画による活動支援プログラム）を実施し、要素・材料の抽出と整理を行った。
- ケーススタディとして下記3事例を中部地方環境事務所の担当官と協議のうえ選定した。

活動見える化プログラム実証のためのケーススタディ 3 事例	
事例1	同時解決事業・里山保全体験を通した障がい者雇用促進 (長野県飯山市) ※環境省の「SDGsを活用した同時解決事業」中部採択事業 一前年度分析結果を元にその後の経緯を分析
事例2	高校と連携したアブラギリ(桐油)資源化活動 (福井県小浜市) ※協働コーディネーター・中島 阿児氏が協力
事例3	南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進(桜ヶ池モデル地区) ※南砺市エコビレッジ推進課が協力

(イ) 概要版（簡易版）の作成

① 再構築した活動見える化プログラム

- 昨年度構築した活動見える化プログラムについて、今年度はわかりやすく、説明資料として使用しやすいスライド2枚の簡易版の分析チャート図を次の通り作成し、地域循環共生圏づくりとSDGsとの関連性を明示するツールとして再構築した。
- また、実際にケーススタディ3事例で分析チャートを作成した。



10

② 作成したケーススタディによるチャート図（ケーススタディ 3 事例）

活動の経緯チャート 里山保全体験を通じた 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中での体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやまの家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			

鍵となった出来事：[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用のもろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした。

2018年4月～2019年3月

里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3
名称	事例調査と実証事業の実施（プログラム開発）	説明会・報告会の開催と情報発信	本格的な製品化を検討する企画会議と運営体制の整備
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法を検証、プログラム化	地域活動としての理解協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイアー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業による障がい者の作業プログラム立案、実証	・市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催 ・専門家によるセミナー開催 ・本事業内容やプログラムをとりまとめて公表	・ログファイアーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討 ・教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を実施
活動成果	事例調査（ヒヤリング）を実施、障がい者参加による実証作業を実施し作業可能性を検証	地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知	ログファイアー説明コンテンツ案を作成
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館
評価と課題	障がい者参加の検証が十分ではない。プログラムとして確立させる作業を深化させる必要がある。	情報発信が十分とは言えない。関係者の理解協力が十分とは言えない	自立した経済活動としては未だ不十分。運営組織体制も未整備。

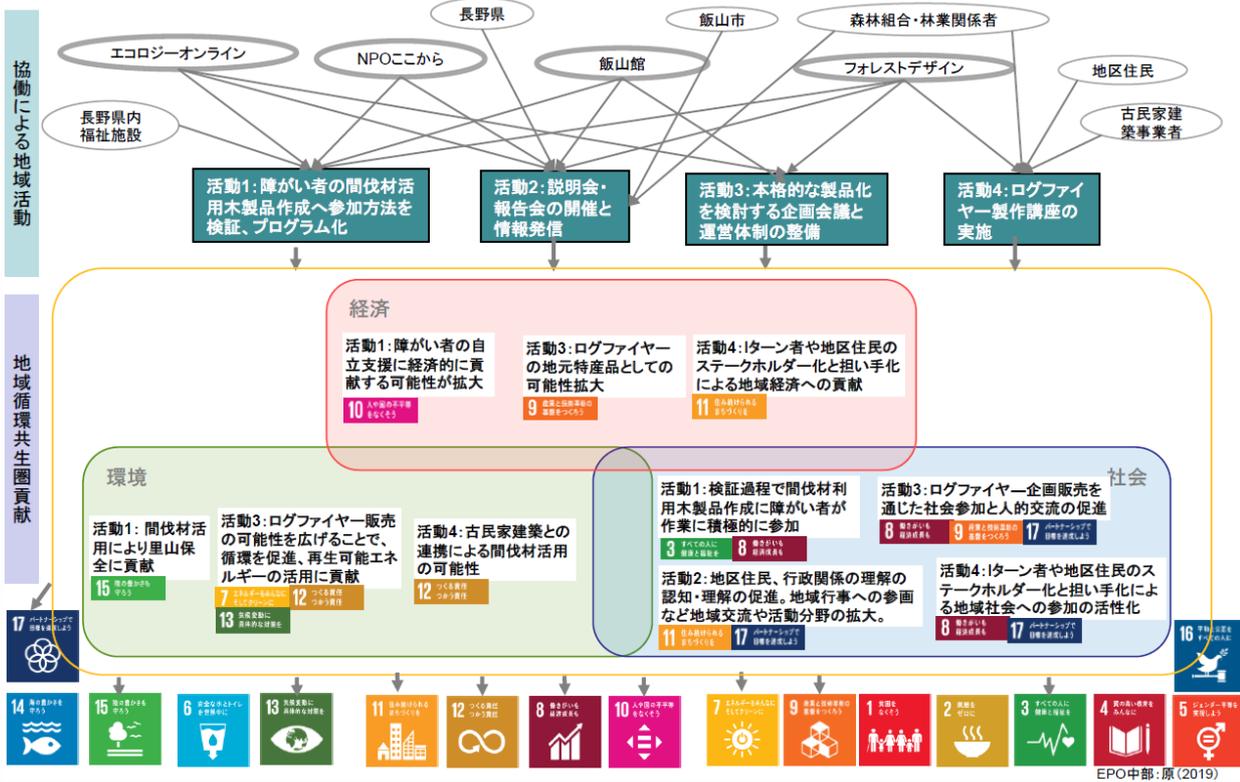
活動の意義（評価）
分析チャート

里山保全体験を通じた 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

2018年4月～2019年12月

里山ウェルネス

[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題に対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用のもろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



活動の経緯チャート

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

NPO法人WACおばま				
以前の活動	活動①財源:学校予算 予算	活動②財源:WAC民間助成 予算	活動③財源:水舎 予算	活動④財源:山村活性化事業 予算
名称	若狭東高校の環境学習	上根来里山再生プロジェクト	桐油の生産事業化	小浜市里山事業ネットワーク
対象課題	環境・社会教育	里山再生、地域創生	経済性・持続性の確保	情報共有、意識啓発
活動内容	間伐材利用の環境学習の一環から、天然性ニス(撥水剤)としてアブラギリ(桐油)の研究を始める。	無住化した集落「上根来」で元住民団体と協働で取り組む里山再生活動。地域に群生しているアブラギリに注目。	生産事業化に向けた主体者として、NPO法人若狭くらしに水舎が桐油事業を引き継ぐ。	小浜市の将来的な里山ビジョン「小浜市里山創造計画」を策定。行動基本計画の中にアブラギリの活用が明言された。
活動成果	アブラギリの実を収穫して搾油の実験。桐油の塗布実験。幹を利用したキノコの原木栽培実験。葉を利用した葉寿司の商品開発。	若狭東高校の研究活動支援。地権者の了解を経て実の収穫作業など実習場として地域を提供。実験設備・道具の提供。啓発活動の補助。	桐油の市場調査、成分分析、大量生産を想定した生産工程の確認。市場調査に使用する製品サンプルを製作。	協議会が発足され、不定期ではあるが会議にてアブラギリの取り組み状況を共有。また生産事業化にかかる試験的な取り組みに対する支援を行っている。
活動成果	実験によりアブラギリの有効利用の可能性が実証された。	上根来地区を中心とする研究環境が確立した。	事業化に向けた課題を整理し、解決手段を実証した。	行政及び、多様な事業者・市民による共有ネットワークが確立した。
連携先	若狭東高校	NPO法人WACおばま	NPO法人若狭くらしに水舎	小浜市里山創造協議会
経緯	若狭東高校で行われていた間伐材利用の環境学習において、作成した机や椅子に使う天然性ニスを探していた。結果、この地方で古くは栽培されいまは厄介者となっていたアブラギリに着目し、その活用の検討を始めた。一方無住化した集落「上根来」コミュニティ(近隣にまとまって定住し転居前の地域社会を維持している)と接触していた「WACおばま」は地域再生を企図しており、当地に自生するアブラギリの活用を若狭東高校と協働して推進する体制を構築した。			

鍵となった出来事:ニホンアブラギリはトウダイグサ科の落葉高木であり、種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コロビ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題的様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化などを通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。

NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎

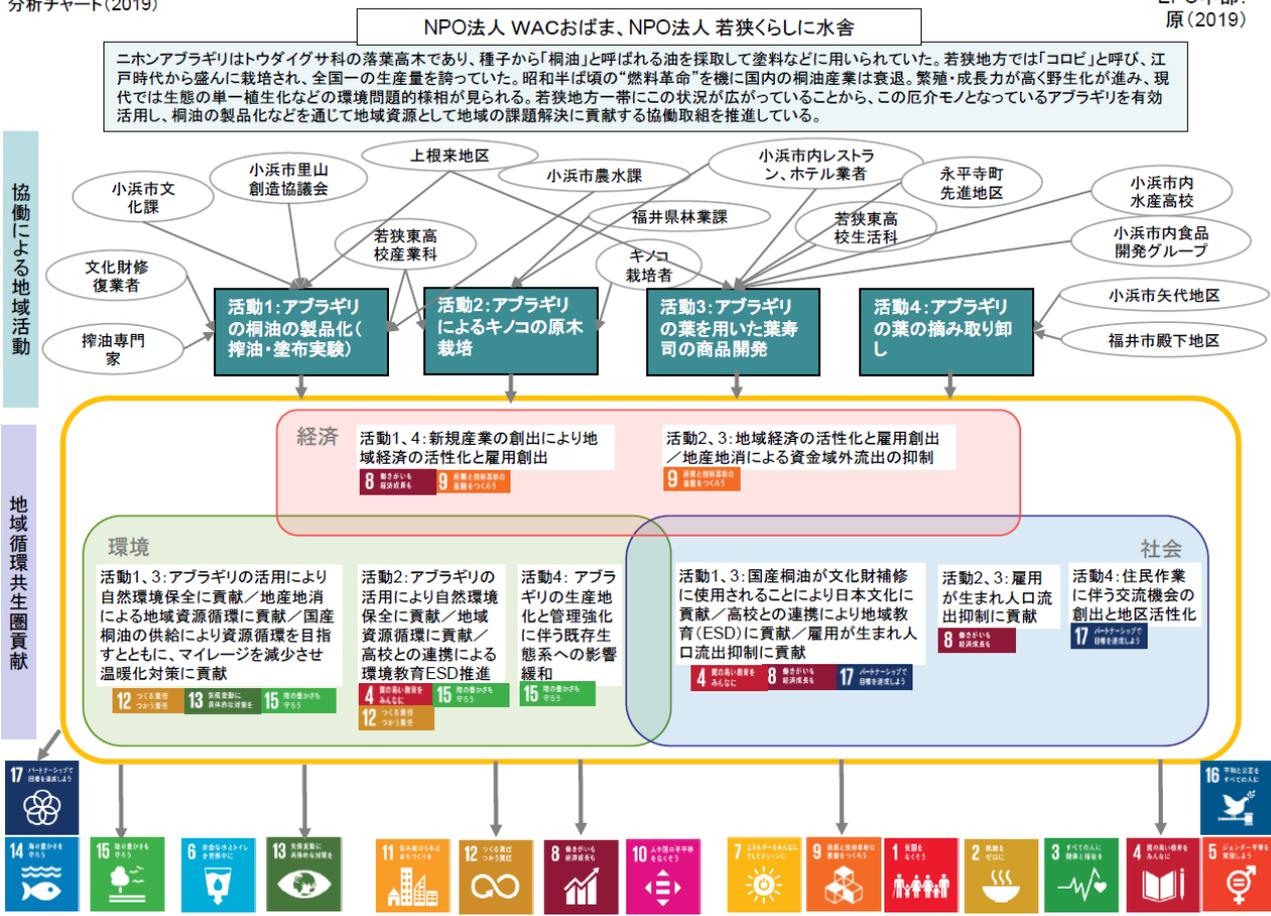
現在の活動	活動1財源: 予算	活動2財源: 予算	活動3財源: 予算	活動4財源: 予算
名称	アブラギリの桐油の製品化(搾油・塗布実験)	アブラギリによるキノコの原木栽培	アブラギリの葉を用いた葉寿司の商品開発	アブラギリの葉の摘み取り卸し
対象課題	アブラギリの桐油を地域発の商品とする。	アブラギリを原木として地域のキノコ栽培を促進する。	アブラギリの葉を用いた葉寿司を地域発の商品とする。	アブラギリの葉の生産地化
活動内容	上根来地区の里山再生プロジェクトと連携した若狭東高校のアブラギリからの桐油の搾油を発展させ、文化財修復用の国産桐油の商品化研究を実施。	アブラギリを原木とするキノコの育成を検証。	先進地の永平寺町で生産されているアブラギリの葉を用いた鱒鮓を参考に、福井県特産のへしことアブラギリとして海と山の出会いの食品ブランド化の可能性。	福井市殿下地区で「葉寿司」を生産販売している業者に対して、若狭地方からアブラギリの葉を卸して買い取ってもらう。
活動成果	品質調査に使う標準サンプルを制作。市販品比較用データ等を得る。提供サンプルの試用に対し、概ね良好な反応が集まってきている。	アブラギリを原木とするキノコの発生状況は予想以上。キノコ栽培への活用展開の可能性を確認。	商品化レベルまでできていると、レストラン業者が評価。国際里山会議にて「里山弁当」として提供。へしことアブラギリとして海と山の出会いの食品ブランド化の可能性。	小浜市矢代地区住民がアブラギリの葉を摘み取り、福井市殿下地区の業者へ送る仕組みを試験的に実施。
連携先	若狭東高校産業科 上根来地区 搾油専門家 小浜市里山創造協議会 小浜市農水課 小浜市文化課 文化財修復業者	若狭東高校産業科 上根来地区 福井県林業課 小浜市内レストラン業者 キノコ栽培者	若狭東高校生活科 上根来地区 永平寺町先進地区 小浜市内水産高校 小浜市内ホテル業者 小浜市内食品開発グループ	小浜市矢代地区 福井市殿下地区
評価と課題	①市場・需要開拓、②相場設定・生産の組織化、③搾油設備の内製化、等が今後の課題	キノコ栽培の希望者にはノウハウを提供できるが、生産者の確保が課題	ブランド化して販売システムを整備することが課題	作業効率や生産販売で取り扱うスケールとの調整が課題

EPO中部:原(2019)

活動の意義(評価)分析チャート(2019)

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

EPO中部:原(2019)



活動の経緯チャート

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進(桜ヶ池モデル地区)

南砺市エコビレッジ推進課		
活動№	活動①	活動②
名称	南砺市エコビレッジ構想策定	モデル地区としての「桜ヶ池エコビレッジ宣言」
対象課題	「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・運動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考え、思いを共有するビジョン(構想)を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要	エコビレッジ構想を具体的に推進するためにモデル地区が必要。モデル地区の関係者の心構えと協力が必要。
活動内容	2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源(人・自然・経済・情報)の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。	エコビレッジ構想の中で、ポテンシャルの高い「桜ヶ池地区」をモデル対象地区として選定、関係者と合意形成を図る。
活動成果	南砺市の意図する「便利」+「思いやり(自然、人、地域、未来)」による50年後の未来へと繋がる選択の指針を示すとともに「桜ヶ池地区」を重点モデル地区とした。	エコビレッジを実現する際の「心構え」として、今後、孫子の代にわたる取り組みを進める際に、立ち戻れる拠り所として、「桜ヶ池エコビレッジ宣言」を志民会議の総意として定めた。
連携先		
経緯	南砺市では、「環境保全・エネルギー」「農林漁業」「健康・医療・介護・福祉」「教育・次世代育成」の4つの分野が相互に連携・運動しながら、地域の自立と循環を図ることが重要だと考えていた。また、思いを共有するビジョン(構想)を描き、その実現に向けた取り組みの輪を広げていくことが必要と考え、その第一歩として市では、次代を担う子どもたちが安心して、地域に誇りを持ちながら暮らし続けていくための「エコビレッジ構想」の策定に着手した。その結果、2013年3月、南砺市と市民の協働によって、地域資源(人・自然・経済・情報)の「循環」による地域の「自立」を新たな視点とする総合的な地域づくりのあり方を示す構想として策定された。その中で具体的な事業推進のために「桜ヶ池地区」がモデル地区として設定された。	

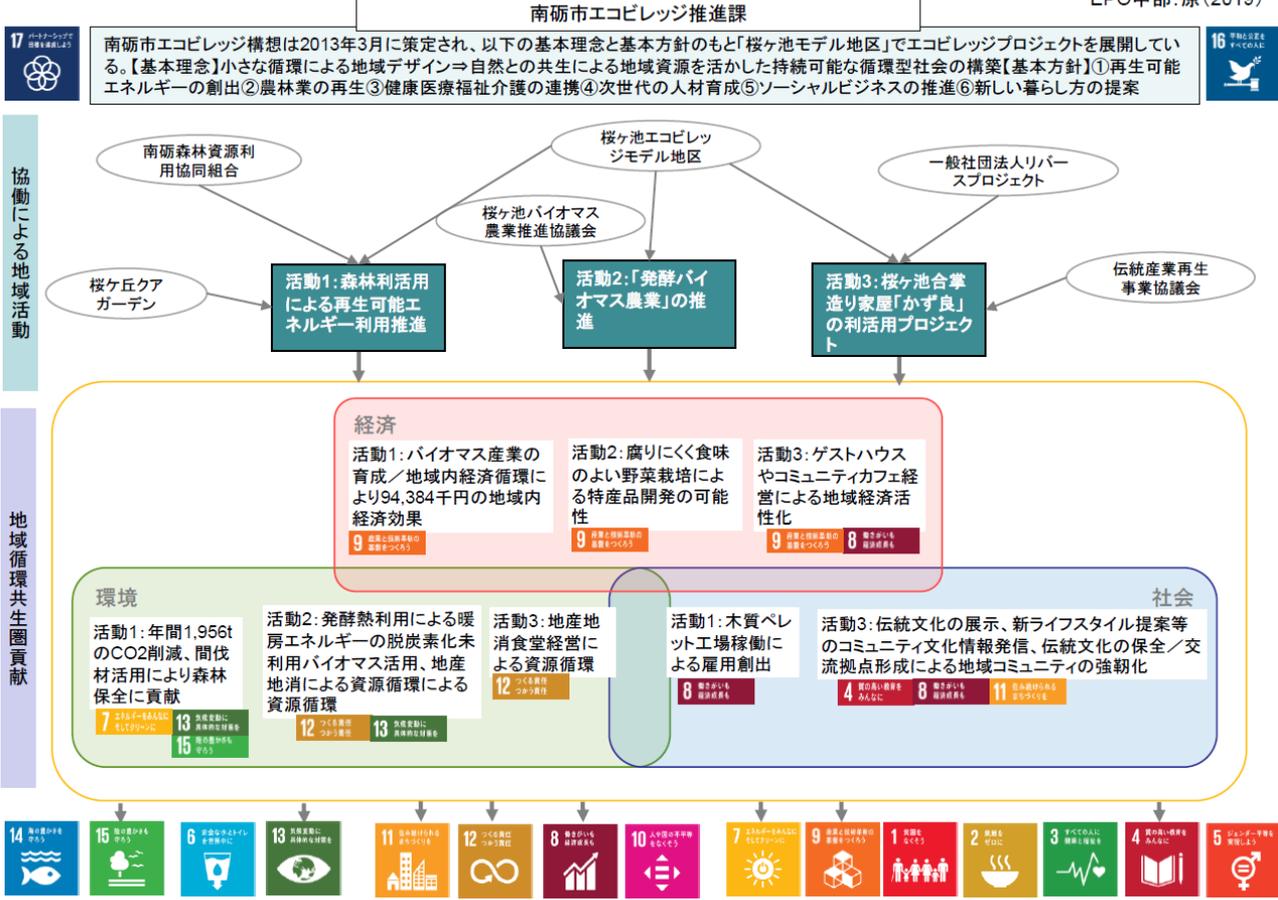
カギとなった出来事:南砺市エコビレッジ構想は2013年3月に策定され、以下の基本理念と基本方針のもと「桜ヶ池モデル地区」でエコビレッジプロジェクトを展開している。【基本理念】小さな循環による地域デザイン⇒自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築 【基本方針】①再生可能エネルギーの創出②農林業の再生③健康医療福祉介護の連携④次世代の人材育成⑤ソーシャルビジネスの推進⑥新しい暮らし方の提案

南砺市エコビレッジ推進課			
活動№	活動1	活動2	活動3
名称	森林利活用による再生可能エネルギー利用推進	「発酵バイオマス農業」の推進	桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」の利活用プロジェクト
対象課題	森林資源の持続的活用と多面的機能の維持、未利用エネルギー活用とCO2排出削減	木の皮などのバイオマスの発酵活用	「新しいライフスタイル」を提案する情報発信、「麻布、養蚕、絹織物」など伝統産業・文化の復活、移住、定住者の地域活動の受け皿、住民との交流・コミュニティ形成
活動内容	林地残材等を原料とした木質ペレット生産工場稼働と木質ペレットボイラー等の利用施設稼働(桜ヶ池クアガーデン等)による資源循環枠組みの構築	廃棄される木の皮を発酵させて熱とCO2等のガスを発生させ、その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬季の暖房を行い一年を通じた温室栽培を可能とする。	合掌造り家屋「かず良」の改修と利活用によるライフスタイル・伝統文化教育情報発信、コミュニティ交流拠点の形成
活動成果	木質ペレット生産工場「木の家」整備稼働 「桜ヶ池クアガーデン」の木質ペレットボイラー整備稼働	桜ヶ池地区でビニールハウスを整備、通年の栽培を可能に。発酵ガスのCO2により作物が活性化され、腐りにくく、食味のよい作物を収穫。	ゲストハウスの運営、囲炉裏体験やサテライトオフィス、まちづくりのための若者実習棟の拠点形成、コミュニティカフェ経営、城端絹、福光麻布、福野絹、養蚕などの資料展示・情報発信 「かず良塾」、発酵食や報恩講料理などの子ども食堂運営、東京と南砺を結ぶリパースビレッジなどライフスタイル提案
連携先	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、南砺森林資源利用協同組合、桜ヶ池クアガーデン	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、桜ヶ池バイオマス農業推進協議会	桜ヶ池エコビレッジモデル地区、一般社団法人リパースプロジェクト、伝統産業再生事業協議会
評価と課題			

活動の意義(評価)分析チャート(～2019)

南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進(桜ヶ池モデル地区)

EPO中部:原(2019)



(ウ) ケーススタディの事例主体によるチャート図の活用

- 事例1（同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進）では、市の担当者が庁内説明に活用しており、説明しやすくなり助かったとの報告があった。また、同時解決事業の採択団体は事業紹介用ツールの中で見える化プログラムのチャートを掲載するなど活用している。
- 事例2・3（高校と連携したアブラギリ（桐油）資源化活動・南砺市エコビレッジ構想に基づくエコビレッジプロジェクト推進）では、取組内容と地域循環共生圏・SDGsとの関連性を1枚の資料で明示できるとして、関係者や住民への説明資料として活用している。
- そのほか、地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業への応募を検討していた団体からは、多々ある関連の取組の中から何を地域循環共生圏づくりとしてアピールすべきか、「見える化プログラム」で整理したいといった活用ニーズが聞かれた。

ウ 地域循環共生圏づくり研究会の開催

(ア) 第1回研究会

① 日時

- 8月23日（金）13:30～16:30

② 場所

- EPO 中部（愛知県名古屋市）

③ 出席者

- 計16名

（協働コーディネーター）11名

（敬称略）



地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長
三重	川北 輝	特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 副代表理事
富山	堺 勇人	環境市民プラットホームとやま 副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
富山	中川 透	ウッズスタジオ株式会社 代表取締役
石川	中里 茂	環境カウンセラー
福井	中嶋 阿児	NPO法人 WACおばま 理事、NPO法人 若狭くらしに水舎理事
岐阜	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会 理事長
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局（越前市農政課）
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん

（オブザーバー）環境省中部地方環境事務所環境対策課 西田 清紀主査

（事務局担当）EPO 中部 清本三郎、原 理史、富田夏子、小松朋美

④ 主な議事

1. EPO 中部・協働コーディネーターの要件（研究会の設置要綱）について
2. 活動見える化プログラムについて
3. 地域循環共生圏に関わる情報提供
4. その他ディスカッション
5. 次回研究会について

⑤ 会議資料

- 資料0 議題全体説明資料
- 資料1 地域循環共生圏づくり研究会設置要綱（事務局案）
- 資料2 「活動見える化プログラム」資料
- 資料3 「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」説明資料・採択団体紹介資料
- 資料4 EPO 中部・協働コーディネーターの活用展開（実績・予定）
- 資料5 EPO 中部関連報告書リスト

(イ) 第2回研究会

① 日時

- 11月22日(金) 13:00～16:10
- 11月23日(土) 09:15～10:45
- (※11月23日(土) 12:00～15:00は協働フォーラムに参加)

② 場所

- なべくら高原森の家・こもれび(長野県飯山市)

③ 出席者

- 計14名
(協働コーディネーター) 8名 (敬称略)



地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長
岐阜	河合 良太	泉京・垂井 理事、地域の未来・志援センター 地域コーディネーター
富山	堺 勇人	環境市民プラットホームとやま 副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
福井	中畷 阿児	NPO法人 WACおばま 理事、NPO法人 若狭くらしに水舎 理事
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局(越前市農政課)
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん

(オブザーバー) 環境省中部地方環境事務所環境対策課 西田 清紀主査

(事務局担当) EPO 中部 福井弘道、清本三郎、原理史、富田夏子、小松朋美

④ 主な議事

一日目	
13:00	集合・開会・事務連絡
13:15	ご挨拶(中部地方環境事務所) 【アイスブレイク】全員の近況、活動状況の報告・共有(15分)
13:30	【話題提供】地域循環共生圏の概説と関連動向(中部地方環境事務所)(30分)
14:00	【地域循環共生圏①】(60分) ・アンケートで地域循環共生圏づくり取組事例を「知っている」と回答した内容を紹介いただく
15:00	休憩(10分)
15:10	【地域循環共生圏②】(60分) ・上記①での事例について課題や懸念材料、将来性や評価できる点、必要な支援などをフリーディスカッション(原がキーワード抽出) ・EPOとの連携(行事等開催)の可能性(地域循環共生圏づくり、ESD、SDGsをテーマに)
16:10	一日目 終了
二日目	
09:15	【取組状況の共有】(60分) ・協働コーディネーターによる取組発表;蒲氏、河合氏(10分×2) ・昨年度の取組発表者のその後の活動状況・現状等の報告・紹介、質疑応答等(40分)
10:15	【情報共有】協働コーディネーター・アンケート結果と今後の展開案について(15分)
10:30	2/6第3回研究会(及び1/31地域循環共生圏ワーキング)そのほか事務連絡
10:45	終了

(ウ) 第3回研究会

① 日時

- 2月7日(金) 13:30～16:30

② 場所

- EPO 中部(愛知県名古屋市)



③ 出席者

- 計 16 名

(協働コーディネーター) 11 名

(敬称略)

地域	名前	所属
愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長
岐阜	河合 良太	泉京・垂井 理事、地域の未来・志援センター 地域コーディネーター
富山	堺 勇人	環境市民プラットフォームとやま 副事務局長
愛知	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
富山	茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役
三重	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
石川	中里 茂	環境カウンセラー
福井	中嶋 阿児	NPO法人 WACおばま 理事、NPO法人 若狭くらしに水舎 代表理事
福井	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局 (越前市農政課)
長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん
長野	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局長、 佐久市市民協働サポートセンター センター長

(オブザーバー) EPO 中部運営会議 座長 (日本福祉大学 教授) 千頭聡

環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査 西田清紀

(事務局担当)

EPO 中部 清本三郎、原理史、富田夏子

④ 主な議事

時間	実施内容
13:30	集合・開会 ご挨拶(千頭先生、中部地方環境事務所)
13:40	【アイスブレイク】全員の近況、活動状況の報告・共有(20分)
14:00	【報告(話題提供)】 ①1/31 開催・地域循環共生圏づくりセミナーに関する報告(30分) 開催の概要・結果の説明:事務局 ファシリテーター参加したコーディネーターからの報告(参加者の意識・認識、支援の必要性など)
14:30	【情報提供】(40分) ②地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業について 新規事業の概要と募集要項について:中部地方環境事務所 2019年度採択団体の取組状況について:EPO 中部
15:10	休憩(10分)
15:20	【ディスカッション】(50分) ③(上記②)地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に関する意見交換 PF 事業に関わる質疑応答、補足等 ④(上記①、第2回研究会の結果をもとに)地域循環共生圏活動者ネットワーク展開について ネットワークで議論・共有したいこと(勉強会等の内容・開催方法、情報提供、活動・事業段階に応じた支援など) 企業、経済団体、金融機関等との連携(経済・ビジネス性の確保に対する支援など) 「地域循環共生圏」「協働」「ESD」をテーマにしたフォーラム等の地域開催・共同開催 ほか
16:15	事務局連絡(15分/時間調整枠)
16:30	終了・解散

(エ) 協働コーディネーターへの意見聴取

- 第1回、第2回研究会実施後、補足的に意見を聴取する目的で、協働コーディネーターを対象にした意見記入票の配布、回収を行った。

① 第1回研究会開催後に13名から回収された意見（一部抜粋）

(敬称略)

No.	設問	坂本 竜児	寺田 卓二	蒲 和宏	山田 勇
1	今後も「EPO中部・協働コーディネーター」の会合への参加の可否についてお答えください。	1. 今後も参加可能である	1. 今後も参加可能である	1. 今後も参加可能である	1. 今後も参加可能である
2	「地域循環共生圏づくり研究会」は今後も継続すべきと考えますか。	1. 継続するべきである	3. どちらともいえない	1. 継続するべきである	3. どちらともいえない
3	「EPO中部・協働コーディネーター」(及びご自身個人)が、SDGsの活用や地域循環共生圏づくりの支援に取り組むことに対して、どのように感じていますか。	1. 特に問題なし・違和感なし	1. 特に問題なし・違和感なし	2. 問題あり・違和感あり	1. 特に問題なし・違和感なし
4	「EPO中部・協働コーディネーター」の会合(もしくは地域循環共生圏づくり研究会)は、ネットワーク、会合のどちらが良いと考えますか。	1. ネットワークが良い	4. そのほか	3. どちらでも構わない	4. そのほか
5	今までに「EPO中部・協働コーディネーター」で良かったと思えるような場面・できごとなどはありましたか。	—	1. あった	1. あった	1. あった
6	「地域循環共生圏づくり研究会」で得られた情報や、EPO(環境省)からのメール等での提供情報で役に立った内容がありましたら、具体的にどんな情報がどのように役立ったか記入してください。	—	—	—	—
7	今後の会合(地域循環共生圏づくり研究会)の開催・運営や、EPO(環境省)からの情報提供などに対し、ご意見、要望、アイデアなどがありましたら、ご記入ください。	—	—	—	—
8	ご自身の関係または周辺で、「地域循環共生圏づくり」に近い取組や「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」への次回応募を検討してみたいと考える取組や団体などがありますか。	1. あり: 自身が関係する取組	3. 知らない	3. 知らない	3. 知らない
9	EPO中部が構築中の「活動見える化プログラム」をこれまでに活用したことがありますか。	3. 活用したことはない	3. 活用したことはない	3. 活用したことはない	3. 活用したことはない
10	EPO中部が構築中の「活動見える化プログラム」は、どのようなものであれば活用度がより向上すると思いますか。	—	—	—	—

② 第2回研究会後に7名から回収された意見

記入意見
<p><協働コーディネーターとしてよかったこと、今後の参考になったこと></p> <p>① 地域循環共生圏の考え方を研究会の事例発表でよく理解できた。</p> <p>② 地域循環共生圏＝地域SDGsとすると理解が深まる。</p> <p>③ 交流することが次のアイデアの力になる。</p> <p>④ 現在進めている森林プロジェクト(地域の森を再生し、地域で利益があがり、循環していく仕組)のアイデアがなかなかみえてこない状況の中、今回の参加でヒントをもらえた(大きくなくても小さな区域でまわるシステムなど…)。</p>
<p>泊まりはゆっくり情報交換できた。いつもは決められたお話をかしまって聞き、コメントするだけだったが、世間話をはさみながらいろいろと意見交換できた。</p> <p>コーディネートは、たこつぼに入ったら役立たなくなるので、このような事例を学び、ディスカッションする機会は重要だ。</p> <p>中部地域の協働取組を加速するためには、現地に出向き、協働取組をはだで感じ、ディスカッションし、自分ごととして地域(活動長)にアドバイスをすると、自分の取組の中にもヒントがうかぶ。</p> <p>引き続き、現地を学ぶ機会を設けてもらいたいです。</p>
<p><協働コーディネーター研究会について></p> <p>・多様な世代、地域取組をされている方々となつなげることができ、情報交換ができたことがよい。ここがなければつなげられなかった人も多と思う。</p> <p>・既存のシンポジウムや研究会では、その場・その日限りでそれ以上の発展はあまりないと感じるが、この研究会では、研究会以外の場でもつながりが継続していると感じる(興味のある活動に個人的に行ったりなど。当団体もなごや環境大学の共育講座に申請予定)。</p> <p>・時間をかけて交流することで、本来では聞けないような資金や行政・企業とのつきあい方、失敗談などを聞いた。このような事の共有は、協働を推進するときには、とても重要な情報であり、自分の活動に役になった。</p>
<p><協働コーディネーター研究会について></p> <p>試行錯誤の普段の取組なので、こうやってそれぞれの方々がそれぞれの場所でやっておられることを共有する、その想いの部分も共有できることが何より勇気を得るきっかけとなります。そのことを改めて実感した会でした。</p>
<p><今回の研修会から今後の活動に生かせると思ったこと></p> <p>1. 富山県の塚さんの取組は、今後、自分たちがESD・SDGsの取組を進めるうえで参考となった。特に、地域団体や地域の企業向けに、地域団体としてSDGs導入のコンサルティングを行っていくノウハウを共有していきたい。</p> <p>2. 坂本さんの取組の中から、FIT後の市民の太陽光発電の生かし方については、近くでもあるので、是非、機会を作って四日市市内で講座を開催したい。</p> <p>3. 地域循環共生圏づくり事業について、必要な要素についての理解が進んだ。</p>
<p><EPO中部と一緒にできたらいいこと></p> <p>上記「1」とからんで、今後、地域のSDGsを地域で進めるためのコンサルティング技術・思考について、一緒に研究したい。</p>
<p>・年に数回協働コーディネーターが集まって意見交換を行う事で、地域の事例やアドバイスをもらえる点は、各自の取組において活用できる事が多く、有意義だと思った。今後、里山保全や環境を柱とした事業の立ち上げを予定しているので、コーディネーターのスキルアップや事業の進め方にとても役立った。</p>
<p>各地の事例を直接うかがい、気になったことをその場で質問できるため、理解が深まるとともに、現場に戻ってから、自分も頑張ろうというモチベーションのアップにつながっています。</p> <p>森林整備と森林資源の活用については、特に参考になりました。販路をまず確保して計画をすすめる大切さとその時にネットワークがいきることを学びました。</p> <p>夜の交流でも、事業をすすめるだけではなく、自分の稼ぎも考えていかなければならないというコーディネーターの悩みも共有でき、他の方の事例をうかがうことができ、もっと行政にも積極的にアプローチしていかなければと思います。</p> <p>みなさん市町村だけでなく、県や国とも一緒に活動されていて、もっと視野を拡げなければと刺激を受けています。</p> <p>森カフェコーディネーター養成講座は、来年度以降、地元以外での開催をすすめていきたいと考えていますので、ぜひEPOのみなさまにもご協力いただけるとありがたいです。</p>

(オ) 研究会における協議・意見聴取の結果

① 今年度の全体的な協議等の流れについて

	時期	協議内容等	備考
第1回研究会	8/23	<ul style="list-style-type: none"> EPO中部・協働コーディネーターの要件(研究会の設置要綱)についての検討(結果的に十分な検討には至らず会議が終了。) 「協働コーディネーター」照会対応事例、協働コーディネーターで良かった点等を報告・共有 	11名出席
記名式アンケートの実施		<ul style="list-style-type: none"> EPO中部・協働コーディネーターの主な目的を地域循環共生圏づくり・SDGs支援であると設定のうえ、EPO(環境省)による報酬は確保・担保されない(別途EPO業務協力等は除く)ことなどを前提に、今後の参加の可否を問うアンケートを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1名が今後の参加を辞退、2名から回答なし。 研究会の方向性(ネットワークか会議体か)をたずねた設問に対し、コーディネーター13名の回答は様々であった。 <p style="text-align: center;">▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">次年度は、協働コーディネーターを含めた地域循環共生圏づくり活動者の「ネットワーク」として展開することを決定</p> <p style="text-align: center;">▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">アンケート結果を共有</p>	16名全員に送付 ↓ 13名からアンケート回答、継続表明あり
第2回研究会	11/22 ~23	<p style="text-align: center;">地域循環共生圏づくりをテーマにしたディスカッションの場として開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくりの事例の共有 地域環境活動を地域循環共生圏づくりへシフトさせる上で重要な要素、地域・取組主体側にとっての懸案・課題となっている要素の抽出 	8名出席
地域循環共生圏づくりセミナー	1/31 中部地方環境事務所	<p style="text-align: center;">地域循環共生圏づくりワーキングにおいて</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話題提供: 環境課題を地域経済・活力の創出に活用・転換する「地域循環圏」による地域の未来像の描き方について(バックキャストिंगについて)の講演 ② 情報提供: RESAS、地域経済循環分析による地域の現状把握について(フォアキャストिंगに活用可能な材料として)の勉強会 ③ 上記①②をもとに具体的なワーキング(グループワーク)を実施し、協働コーディネーターがファシリテーターとして参加 <p style="text-align: center;">▼▼▼</p>	ファシリテーターとして4名参加
第3回研究会	2/7 EPO中部	<ul style="list-style-type: none"> 上記の「地域循環共生圏づくりワーキング」の結果や、参加した自治体職員の支援ニーズ・意識(レベル)等について報告して共有 <p style="text-align: center;">▼▼▼</p> <p style="text-align: center;">ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏づくり活動者が求める支援、ネットワークの展開のあり方(勉強会等の内容、情報提供等)について コーディネーター紹介用リスト(協働パンフレットへの掲載)について 	11名参加

▼▼▼

EPO中部による地域循環共生圏づくり活動者ネットワークの次年度展開へ

② 研究会のあり方について(第1回研究会・アンケート結果等より)

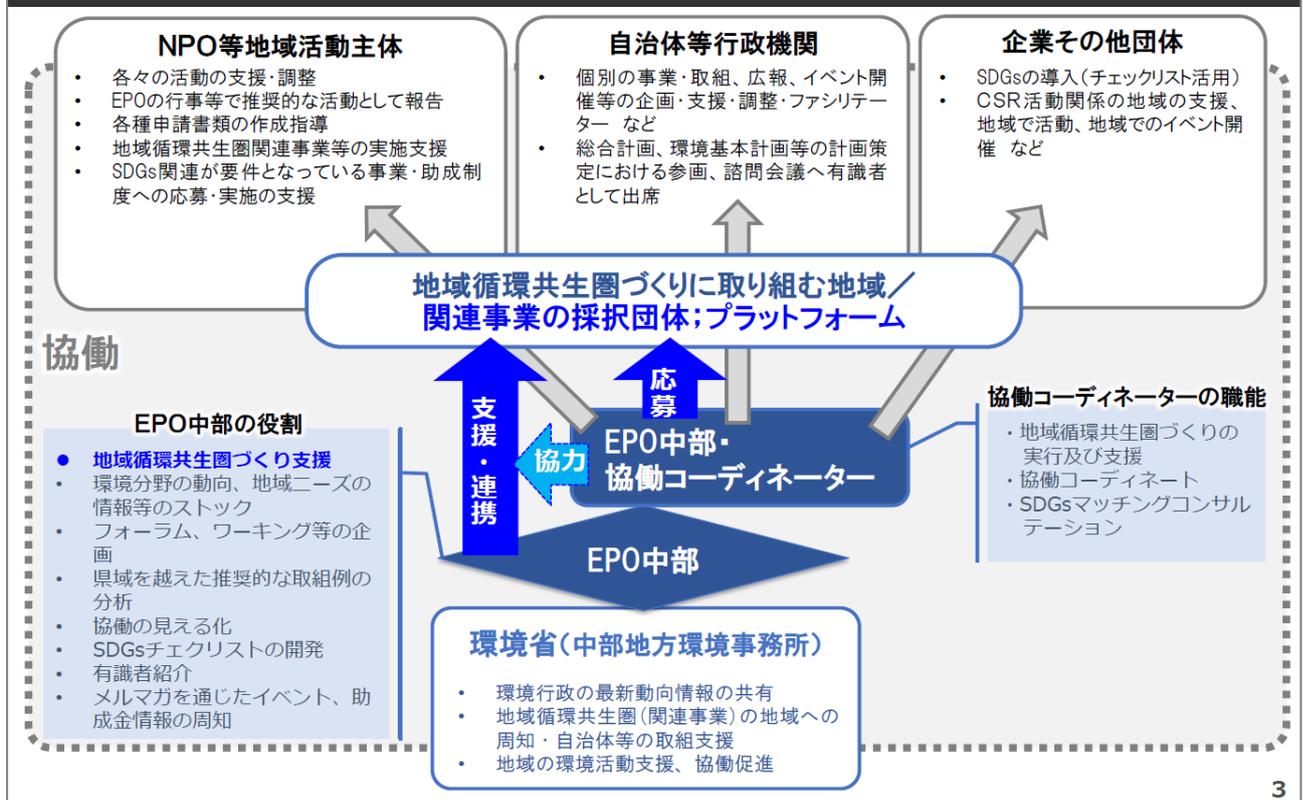
- 第1回研究会での協議事項と、協働コーディネーターへのアンケート結果をもとに、研究会のあり方を検討し、ネットワークとして展開することが決定した。

アンケートを踏まえた事務局の方針（案）

1. EPO中部・協働コーディネーターは「地域循環共生圏づくりの活動者」として位置付け、EPO中部は地域循環共生圏づくりの取組主体に対する支援・連携等を役割とする。
2. 「研究会」については、2/7開催・第3回研究会で一旦終了とし、EPO中部・協働コーディネーター及び地域循環共生圏づくりの取組主体で構成される「ネットワーク」とする。主に環境分野の最新動向、地域ニーズ、県域を越えた推奨的な取組の情報交換を目的とし、議論（提言、決める）の必要がある場合のみ会議体として運営し、事前情報共有を意識し限られた時間で有意義な議論を行えるようにする。
3. 2020年度からEPO中部は、地域循環共生圏／SDGsをテーマにしたワーキング、フォーラム、ミニシンポジウム等を開催する。上記2の「ネットワーク」構成主体にも参画・参加を呼びかけ地域の協働事例等をピックアップし、小規模な活動報告を兼ねたものとする。また、行事の結果については、参加者やネットワーク構成主体に適宜フィードバックし他地域の取組が分かるようにする。なお、イベント、助成金などの情報はEPO中部のメールマガジンで都度共有している。
4. 2019年度は、1/31に上記3のプレ・セミナーとして「地域循環共生圏づくりワーキング」を開催する。EPO中部・協働コーディネーターにファシリテーター参加を呼びかけた上で、2/7開催・第3回研究会でワーキングの結果を報告・共有し、今後のネットワーク及びEPO中部・協働コーディネーターを展開する。
5. 「活動見える化プログラム」はEPO中部の活用ツールとして位置付け、今年度簡素化に既に取り組み、推奨事例を見える化している。今後、事例や手法を蓄積し、ウェブサイトで公開する。プラットフォーム事業の採択の後押しとなるような活用をしていく。

2

EPO中部・協働コーディネーターネットワーク<新>運用イメージ



3

③ 地域循環共生圏づくりにおける取組地域の課題等について（第2回研究会のディスカッションの結果より）

- 第2回研究会では、地域循環共生圏に地域が取り組む上で課題となる事項や取組に必要な要素等を抽出するディスカッションを実施した。
- その結果、下記の事項があげられた。

- お金になる仕組みにする必要がある。
 - 企業による参画や、ビジネスに対する認識のある人材が必要である。
- 事業それぞれに「適切なエリア」が存在することにも目を向ける必要がある。
 - 例えば上流⇄下流。資源を売る→誰に売る？足りないものはどこから入手（購入）する？
 - 都市に売る・他地域から購入する。…ビジネス圏域としてのエリア設定の考え方も重要になる。
- まずは小さなマネージメントで実施する・スタートさせる。
 - 小さな取組であれば完結・結実もさせやすい。
 - つまりは事例として一つの「成果」が得られやすい。成果を「見せる」「共有する」ことができる。
- ステークホルダー（プラットフォーム）の中に経営のプロ、或いはその資質を持った人材が必要。
 - 従来の『活動』の現場の認識（「いいものを安く」「環境保全」等々のみ）ではなく、持続可能な『事業』として展開していくためにはビジネス、マネージメントの資質や感覚も重要になる。
- そのほか
 - 地域資源や取組の付加価値の掘り起こしが重要。
 - 体験の共有（データのみでなく視察等でメリットを実感させる）も重要。

④ 地域循環共生圏ネットワーク（中部ブロック）による展開について（第3回研究会のディスカッションの結果より）

- 次年度以降は研究会を地域循環共生圏づくり活動者ネットワークとして位置づけ、展開するにあたり、第3回研究会ではネットワーク展開のアイデアを抽出するディスカッションを実施した。

- 地域のビジョン（ローカル SDGs）の設定では、SDGsの本質の理解が重要となる。
 - ビジョンの達成では169ターゲットを意識することも大切である。
 - SDGsの地方データ（現状評価データ等）が必要とされている。
 - 自治体（組織）は横串協働への誘導も重要となる。
 - SDGs推進を地域で展開していくためのプログラム（ツール）が必要とされている。
- 地域におけるSDGs推進において、企業、行政、市民など対象別の戦略（プログラム、ツール）が求められている。
 - 例）企業：本業・事業活動における利益にふれる／行政：分野・部署の垣根の取り払いを目指す／市民：SDGsを身近なものにする など。

エ 協働コーディネーターとの連携取組

- 2019年度に協働コーディネーターと連携・協力して実施した取組は、次の通りである。

	EPOの取組への協力内容	協力した協働コーディネーター
1	8月・11月に富山県内で「SDGs実践セミナー」の開催（2回開催）の共催協力（テーマ：地域循環共生圏／同時解決）	堺勇人氏（環境市民プラットホームとやま）
2	8月に石川県金沢市で開催したEPO主催フォーラムに登壇して協働取組の事例紹介	中畠阿児氏（NPO法人WACおばまNPO法人） 茶木勝氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ）
3	11月の第2回研究会で協働取組の事例紹介	河合良太氏（泉京・垂井、地域の未来・志援センター） 蒲和宏氏（「なごや環境大学」実行委員会事務局長）
4	11月に長野県飯山市で開催したEPO主催フォーラムで里山活用プロジェクト「森カフェ」開催協力	山田勇氏（NPOわおん） →ほかのコーディネーターによる里山をテーマにした活動で「森カフェ」連携展開などあり

	EPOの取組への協力内容	協力した協働コーディネーター
5	「地域循環共生圏づくり取組事例ヒアリング」業務で対象事例の活動者としてヒアリングに協力	茶木勝氏(株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ) 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)
6	1月開催「地域循環共生圏づくりセミナー」でファシリテーター協力	坂本竜児氏(NPO エコデザイン市民社会フォーラム) 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター) 三田村佳政氏(水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局) 山室秀俊氏(長野県 NPO センター 事務局長)
7	(※ESD センター業務) 「SDGs チェックリスト」 活用ワークショップにファシリテーター協力	日進市職員対象WS 坂本竜児氏(NPO エコデザイン市民社会フォーラム) 蒲和宏(「なごや環境大学」実行委員会事務局長)
	味噌煮込みうどん大久手山本屋WS	坂本竜児氏(NPO エコデザイン市民社会フォーラム) 蒲和宏氏(「なごや環境大学」実行委員会事務局長) 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)
	西濃環境 NPO ネットワークWS (河合氏:共催協力)	坂本竜児氏(NPO エコデザイン市民社会フォーラム) 中島阿児氏(NPO 法人 WAC おばま NPO 法人) 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)

(2) 地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化

ア 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用

(ア) 出展可能な環境イベントのリスト作成と公開

- 前年度に収集した自治体主催の「環境」をテーマにした出展可能イベントのデータについて、公開を前提にした情報確認とリスト化の整理を次表の通り、行った。
- また、作成したデータ集(リスト)については、EPO 中部ウェブサイトにて公開した。

調査時点→	2019年 12月	2019年 3月	前回からの 増減
富山県	11	12	-1
石川県	8	5	3
福井県	12	8	4
長野県	26	15	11
愛知県	69	61	8
岐阜県	32	26	6
三重県	20	11	9
計	178	138	40

【EPO 中部ウェブサイトでの公開】

中部7県における《NPO等が出展できる環境イベント等一覧》 をご活用ください

EPO中部では、中部7県〔富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県〕における《NPO等が出展できる環境イベント等一覧》を作成しました。
団体の活動PRの場を検討される際などにお役立てください。

- ▶ 富山県内のイベント  [PDF/89KB]
- ▶ 石川県内のイベント  [PDF/87KB]
- ▶ 福井県内のイベント  [PDF/267KB]

- ▶ 長野県内のイベント [\[PDF/139KB\]](#)
- ▶ 愛知県内のイベント [\[PDF/373KB\]](#)
- ▶ 岐阜県内のイベント [\[PDF/135KB\]](#)
- ▶ 三重県内のイベント [\[PDF/115KB\]](#)

▼リストのサンプル例（長野県のリスト）

NPO等が出展できる環境イベント等〔長野県〕(2019年12月時点掲載)

No.	自治体	名称	開催日時	開催場所	主催者	協賛者	NPO等の協賛について		開催時期	問合せ先	イベントの登録の備考URL
							名称	URL			
1	長野県	体験型学びの環境博覧会 ～環境博覧会2019～	●	有	環境博覧会実行委員会(長野県、長野県環境推進委員会、長野県協賛)	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年7月27日(土)～28日(日)	体験型学びの環境博覧会(主催者事務局:長野県庁内) TEL:020-258-3335	http://hibo2019.nagano-pref.gov/	
2	長野県	環境博覧会2019～環境博覧会2019～	●	有	環境博覧会実行委員会(長野県、長野県環境推進委員会、長野県協賛)	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年7月27日(土)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
3	長野県	環境博覧会2019～環境博覧会2019～	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月17日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
4	長野県	2019年11月17日(日)環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月14日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
5	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月29日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
6	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月27日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
7	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月18日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
8	松本市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月12日(日)～14日(月・祝) 中央公民館前広場	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
9	上田市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月19日(土)～20日(日) 中央公民館前広場	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
10	岡谷市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月17日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
11	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年7月14日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
12	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月26日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
13	伊那市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月26日(日)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
14	長野県	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年10月26日(土)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
15	塩尻市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月18日(土)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	
16	塩尻市	環境博覧会2019	●	有	環境博覧会実行委員会	有	http://hibo2019.nagano-pref.gov.jp/hibo/	2019年11月18日(土)	環境博覧会2019～環境博覧会2019～ TEL:020-217-2455(夜間:9:00～17:00)	http://www.ken-ken.net/kenken/hibo/	

1/2

【リスト掲載イベントについて】

リストは、2019年12月時点でEPO中部が検索を行い、下記3項目に該当しているイベントを抽出・整理したものです。

- 中部7県の県市町村等の自治体が主催等に関連している。
- イベントのテーマが環境に関連している（環境関連のコーナーなどがある）。
- NPO・NGO等の地域団体によるブース出展が可能になっている。

※リスト掲載のURLは、検索時点に閲覧可能だったウェブサイト・ページです。
 ※各イベントの詳細は、リストに掲載のそれぞれの「問合せ先」におたずねください。
 ※イベントの追加、訂正・削除については、office@epo-chubu.jp へお知らせ願います。

(イ) SNSの活用

- EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター兼用の Facebook ページを 2019 年 5 月末に開設した。
[\(https://www.facebook.com/EP0chubu/\)](https://www.facebook.com/EP0chubu/)
- 主に主催イベント情報や新規発行物等の案内・お知らせなど情報提供のための投稿を行っている。



イ 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催

(ア) 第1回フォーラム

① 日時

- 8月7日（水）13：00～16：30

② 場所

- 金沢勤労者プラザ 4階 406 研修室（石川県金沢市）

③ 参加者数

- 30名

④ プログラム

- 講演：「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖
新 広昭 氏（金沢星稷大学経済学部 教授）
- EPO 中部・協働コーディネーターによる地域環境活動事例の紹介
事例1：上市アグリパーク構想の取り組みと地域資源活用事例
茶木 勝 氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役）
事例2：厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組
中 嶋 阿 児 氏（NPO 法人 WAC おばま 理事、NPO 法人若狭くらしに水舎 理事）
- 高校生の環境活動の紹介
事例1：トキ保護の普及・啓発活動
石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊
事例2：能登の棚田における環境保護活動
石川県立七尾東雲高等学校 能登ちゃべちゃべ隊
事例3：伝統と文化を紡ぐ養蚕復活プロジェクト
石川県立津幡高等学校 園芸部
- グループディスカッション
高校生から見たら大人の活動はどう見える？ 大人は高校生の活動をどう導く？



5. パネルディスカッション (35分)

若い力を地域環境活動に活かすには

⑤ 配布資料

- 資料1 プログラム
- 資料2 「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖
- 資料3 上市アグリパーク構想の取り組みと地域資源活用事例
- 資料4 厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組
- 資料5 高校生の活動事例ごとのグループディスカッション【模造紙作成イメージ】
- 資料6 参加者アンケート

(イ) 第2回フォーラム

① 日時

- 11月23日(土・祝) 12:00~15:00

② 場所

- なべくら高原森の家(長野県飯山市)

③ 参加者数

- 29名

④ プログラム

1. 開会挨拶

西田 清紀 氏(環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査)

2. 講演「多様な協働による事業創造に向けて」

島岡 未来子 氏(早稲田大学政治経済学術院 教授)

3. 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に選定された長野県内団体

1) 長野県根羽村: 流域は一つ「運命共同体」(矢作川流域)

2) 一般社団法人スマート・テロワール協会:

北信スマートテロワール~美しく・個性的で・豊穡な地域自給圏を目指して(北信地域)

4. 協働事例の紹介

1) 飯山林福連携事業と「飯山ログファイヤー」の紹介 里山ウェルネス研究会

2) 協働による里山活用プロジェクト「森カフェ」の紹介

山田 勇 氏(NPO わおん/EPO 中部・協働コーディネーター)

5. 「森カフェ」で交流会&なべくら高原森の家による「木のクラフト」ワーク

6. 閉会

⑤ 配布資料

- 資料1 プログラム
- 資料2 多様な協働による事業創造に向けて
- 資料3 流域は一つ『運命共同体』 長野県根羽村
- 資料4 北信スマートテロワール~美しく・個性的で・豊穡な地域自給圏を目指して
- 資料5 飯山林福連携事業と「飯山ログファイヤー」参考資料
- 資料6 協働による里山活用プロジェクト「森カフェ」参考資料
- 資料7 参加者アンケート



(ウ) フォーラム登壇者等からの事後報告

- 第2回フォーラムの登壇者・協力者等から、フォーラムに登壇等したことの影響として次の事項が報告されている。

<p>同時解決事業の採択団体; 里山ウェルネス研究会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーから、フォーラムの講演(早稲田大学・島岡未来子先生「多様な協働による事業創造に向けて」)の事業創造における「デザイン思考」「リーンローンチパッド」の話が、今後、地域でソーシャルビジネス・プラットフォームを立ち上げに向けて動こうとしている今の自分たちに必要な情報をいただけたとの感想をいただいた。 ・協働コーディネーターによる里山活用プロジェクト「森カフェ」で、事業のキーアイテム(ログファイヤー)を活用した講座開催の取組が進行中。
<p>共生圏PF事業の採択団体; スマートテロワール協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムをきっかけに、里山ウェルネス研究会とスマートテロワール協会のSH(信州大学)が、学生による里山(木こり)体験や間伐材を活用した新しいプロジェクトの立ち上げを協議することになった。
<p>「森カフェ」開催協力; NPO わおん・山田氏 (協働コーディネーター) その他参加した 協働コーディネーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムでの「森カフェ」体験をきっかけにして、他の協働コーディネーター主催の里山づくりイベントで、森カフェを開催することになった。 ・PF事業の採択団体・根羽村(フォーラム登壇者)の取組テーマが「流域(取組エリアが矢作川流域)」と「森林」であることから、事例として参考にしたいと複数のコーディネーターがアンケートで回答。

ウ 地域循環共生圏及び協働取組促進のためのグループワーキング

① 日時

- 1月31日(金) 13:30~17:00

② 場所

- 環境省中部地方環境事務所 第1会議室(愛知県名古屋市)

③ 出席者

- 33名

④ プログラム

1. 開会の挨拶
2. EPO 中部の紹介
3. 講演「環境省の最新動向～SDGs と地域循環共生圏～」
西田 清紀 氏(環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査)
4. 情報提供「地域経済循環分析について」
山崎 清 氏(株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第4事業部 事業部長)
5. 情報提供「地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の紹介」
江口 健介 氏(地球環境パートナーシッププラザ)
6. ワークショップ「持続可能性のための地元担い手ワーキング」
〔ファシリテーター〕EPO 中部・協働コーディネーター
坂本 竜児 氏(NPO エコデザイン市民社会フォーラム)
河合 良太 氏(NPO 泉京・垂井 理事)
山室 秀俊 氏(長野県NPOセンター 事務局長)
三田村 佳政 氏(水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局)
清本 三郎 (EPO 中部)
〔進行〕原 理史 (EPO 中部)
7. 閉会

⑤ 配布資料

- 資料1 プログラム
- 資料2 EPO 中部による「協働」による地域循環共生圏づくり支援
- 資料3 環境省の最新動向～SDGs と地域循環共生圏～



- 資料 4 地域経済循環分析について
- 資料 5 EPO と GEOC
- 資料 6 ワークショップ「持続可能性のための地元担い手ワーキング」
- 資料 7 協働による地域活動・地域循環共生圏のための通信簿
- 資料 8 地域経済循環分析ツール
- 資料 9 参加者アンケート
- 資料 10 協働による地域循環共生圏づくり EPO 中部・協働コーディネーターの紹介
- 資料 11 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレット

エ フォーラム等の参加者アンケート結果

- フォーラム及びセミナーの参加者を対象にしたアンケートでは、いずれも肯定的な回答が多く、参加者は開催内容・結果を好意的に評価していることがうかがえる。
- 参加者同士の交流についても、「十分にできた」と「まあまあできた」が多く、参加者同士の交流にもつながっていたことがうかがえる。
- 役立つ情報について、飯山フォーラムと地域循環共生圏づくりセミナーは「あった」の回答が多いが、金沢フォーラムは「どちらともいえない」が多く、特に取組発表を行った高校生達にとっては、やや難しい内容となっていた可能性がある。
- また、いずれのフォーラム・セミナーの参加者も、「もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられた内容だった」と答えた回答者が多く、参加者のモチベーション向上につながったことがうかがえる。

	●今回の催事はいかがでしたか					●ディスカッション等でほかの参加者と十分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	十分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
190807協働フォーラム金沢 (n=21)	11	10	0	0	0	5	9	3	1	3
191123協働フォーラム飯山 (n=18)	15	3	0	0	0	6	7	1	0	4
200131地域循環共生圏セミナー (n=20)	12	4	2	0	2	9	8	1	1	1

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか				●協働に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答	もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
190807協働フォーラム金沢 (n=21)	9	1	10	1	14	6	0	1	0
191123協働フォーラム飯山 (n=18)	17	0	1	0	17	1	0	0	0
200131地域循環共生圏セミナー (n=20)	17	0	2	1	15	3	1	0	1

【役立つ情報や事例（自由記入）】

<p>190807 協働 フォーラム 金沢</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自身のやっている活動に考え方（ロジック）を活かしたい。 今回の全ての情報～事例が最良最適であります。石川県内ネットワークシステムの確立が必要である。 高校生の意見を聴くことができました。 インターネットなどを使用した広報活動の案 活動の事業化をどう考えるか参考になった。 ・地域協働による地域イノベーション・持続可能な社会を作っていく！→環境における要素がいろいろ分かった！ 実際に行われてる事例や活動を行う上でのアドバイスをいただき、とても参考になりました。高校生との活動事例もありよかったです。
<p>191123 協働 フォーラム 飯山</p>	<ul style="list-style-type: none"> アイデアのつなげ方が参考になりました。 小布施町の取組 自分の中に断片的に行動・思考していた取組がいくつもあった。 島岡先生の話（デザイン思考、リーン・ローンチパッド） 島岡先生の話、勝亦先生の話に興味があり、今、実践しようとしている話がマッチしました。 森林資源の活用の方法やビジネスモデルなどのアイデアを知ることができた。 すべての講演でこれからの新たな取組の参考になった。 スマートテロワール 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の事例発表があり、具体的なことがよく分かった。 地域循環共生圏の具体事例を知ることができてよかった。特に、根羽村の流域での取組は参考になりました。 デザイン思考 根羽村の事例：流域というくくりが地域循環共生圏にフィットすることは発見でした。 久しぶりに環境のテーマのものに参加しました。 北信スマートテロワール、小布施を舞台にいろんな活動をしていること（ものづくり、再生エネルギー等）がとても参考になりました。 リーダーシップの考え方がわかりやすく、まとまっていたので、活用していきたいです。 ログファイヤー、島岡先生のお話
<p>200131 地域 循環共生圏 セミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> EPO 中部における「情報提供・広報等」のサポートを頂けるということ、地域経済循環 SDGs と地域循環共生圏、地域経済循環分析について、ワークショップ SDGs 取組事例、参加者との情報交換 それぞれ視点が異なることを再認識しました。 気候変動と防災の話をもっと聞きたいと思った。 行政の政策形式、市民との交流に役立てそうです。SDGs を意識して仕事をしたいこうと思います。 行政以外の方の考え方を聞いてよかった。 講師発表がよかった。 循環分析等資料。居住地は違っても、同じような課題が出た。 情報分析や先進都市の取組、地域循環共生圏シートの作成 他自治体の課題や考え方が参考になりました。 地域のプレイヤー、高齢の方に活躍いただく新しい視点をいただきました。 地域経済循環分析 地域循環共生圏、経済循環分析 都市側の課題や強みを知ることができ、連携につながっていくと思う。

【参加者の感想等（自由記入）】

<p>190807 協働 フォーラム 金沢</p>	<ul style="list-style-type: none"> アブラガリの活用についての話は大変興味深かった。 今まで地域資源の活用とか考えたこともなかったですし、他人事だったと思います。自分の住んでいる地域のために一生懸命活動されている方のお話を聞いて勉強になりました。私も自分のできることがないか考えていきたいと思います。 地元、環境グループ～SDGs のグループなど石川県内 NPO 関連に事前に PR すべきである。この様なセミナー内容であるならば 100 人以上の紹介が出来ると思います。情報ネット
---------------------------------------	---

	<p>ワーク化が不十分である。今回参加グループ～個人事業など SDGs 活動を行っている方々の情報開示化を行い、より以上の基点構築化を図るべきである。〈地域協働化が不足である〉→〈地域イノベーション不足である〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちだけでは出ないような意見を得られ、より良い活動に活かそうと思う。また、インターネットを使用するなどのすぐに行える案も出てきたのですぐに試行したいと思う。 今日の活動を通じて初めて分かったことや不思議に思うことが多数ありました。トキ・米・養蚕における環境などがどういったところで利用されてより良いものになるのかという構成が今回の講習会において、非常に大事なことだったと思いました。このことをまた、今後の活動に生かせるように日々努力していきたいと思えます！ 今回の環境フォーラムを通じて大人たちが僕たちの知らない間で地道に活動しているんだなと思いました。最初の新広昭さんの発表、「協働」、それは思ってもみなかった成功の連鎖では、“持続可能 (sustainable) な社会 (開発)” を 21 世紀社会のキーワードとして話してくれました。 とても参考になりました。 本日のこのフォーラムを石川県内の NPO 団体にも周知したら良かった。 他校との交流と情報や事例が良かったです！ このような機会がない限り考えないような話をたくさん聞けて楽しかったです。難しい話もあったけど楽しかったです。 講演は難しくあまり理解を深めることができなかった。でも津幡高校の取組を知れてよかったです。 色んな意見を聞いてすごく楽しかったです。同じ班にいた竹内さんと出村先生の対話も面白くて、色んな事に気づけました。 途中参加でしたが、生徒の顔がイキイキしていて最初から参加して色々とディスカッションを見たかったなーというのが本音です。ありがとうございました。
<p>191123 協働 フォーラム 飯山</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営的な視点での話や、地域循環共生圏づくりの具体的事例を知ることができた。今後、森林資源を活用した里山保全事業に取り組んでいきたい。 自然のよい雰囲気・空間で話を聞くと、頭に入ってくるのでよかった（会議室よりもよい）。 島岡先生の講演、今後の活動を進める参考になった。根羽村、スマートテロワールの取組は、流れはわかったが、何かうまくいきすぎていて、きっとある苦労話、もっとうまくいかなかったことを聞きたい。 スマートテロワールの洗練さ、デザイン性の高さ、その統一感を今後市民レベルが共有できるかが気になる。 地域循環共生圏は、ひとつの自治体あるいは地域で取り組む活動だと思っていたが、流域という発想はおもしろく興味深く聴かせていただいた。
<p>200131 地域 循環共生圏 セミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の内容がよくわかりました。これから大いに活動したいと思います。 あらためて地元について、良いところ・悪いところを見つめ直したいと思いました。 ワークショップは、特定の地域ではない議論で少しふわっとしましたが、人口規模や社会状況が異なる地域間の議論は非常に面白かったです。 協働の難しさや課題と達成された先にある効果について知ることができました。さらに深めていきたいです。 限られた時間の中で、シートを作り議論をする、とてもよい経験になりました。 個々人の意見には興味が多くあった。 今後の起業・創業において、①地域経済循環、②SDGs を理念として落とし込むのがよいと再認識しました。 情報量が多すぎて頭がパンパンです。もう少しゆっくり話をしてほしかった。グループワークは先駆的な試みでした。もっと個人の行動につながるとよいかと思いました。 地域循環共生圏づくりという新しいキーワードが新鮮でした。もっと勉強していく必要性を感じました。 地域内を循環させ自立することを目指しており、そのために次世代の育成が重要と考えている。 難しい内容かと思いましたが楽しくできたワークショップでした。

5 中部地方 ESD 活動支援センター一運營業務

(1) ESD 活動を支援するための情報共有等

ア PR ツールの修正・公開

(ア) ワーキング用シートの作成・公開

- 中部地方 ESD 活動支援センターの取組成果及び中部の ESD/SDGs 活動の周知を目的とした PR ツール「ESD のための SDGs チェックリスト」（前年度に作成）を改善、活用すると共に地域の ESD 活動実践者等の活動の可視化に資する業務を実施した。
- PR ツールは 500 部を増刷し、SDGs チェックリスト検証ワークショップ等での配布を行った。
- また、SDGs チェックリスト検証ワークショップ等で活用していたワーキング用シートを中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイト公開し、ダウンロードして自由に活用いただけるようにした。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトへの掲載】

SDGsワークショップのワーキング用シートをご活用ください

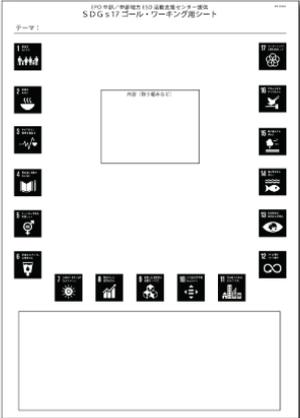
中部地方ESD活動支援センターのSDGsワークショップ用のワーキング・シートをダウンロードできるようにしました。

グループ等でテーマを設定し、そのテーマが現状ではSDGsの17ゴールとどのような関連性を持ち、将来はどのような新しい展開が可能かなどを17ゴールと紐付けしながら考えるワーキングなどで当センターが使用している記入用のシートです。ぜひ、[SDGsチェックリスト](#)とあわせてご活用ください。

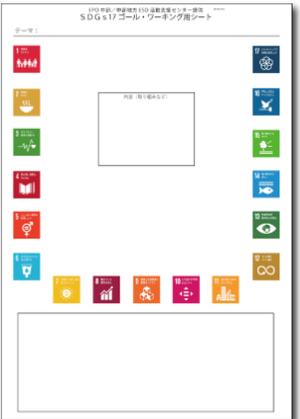
使い方は自由です。ファイルはA1サイズで作成しておりますが、自由にサイズ設定をして出力してください。

また、白黒出力でも見やすよう、国連のロゴ規定通りの黒色ロゴの「モノクロ版」も用意しました。（「カラー版」もあります。）

[モノクロ版 \(PDF/2.28MB\)](#)



[カラー版 \(PDF/2.58MB\)](#)



参考）記入したシート例

- ◆第2回SDGsチェックリスト活用ワークショップ（大久手山本屋）
- ◆岐阜県地球温暖化防止活動推進員の研修
- ◆ユープあいち組合員交流会（原による作成資料）



(イ) 改善・改訂した SDGs チェックリスト

- 昨年度作成した「ESD のための SDGs チェックリスト」を実際にワークショップ等で活用しつつ、使い勝手等を検証し、改善検討を行った。
- 改善を反映して今年度新規に作成したチェックリストは次の通り、「基本段階版」と「事業所活用版」の2種類である。
- 作成したチェックリストは、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト公開・掲載した。

【基本段階版】

SDGsチェックリスト ver.1.20

監修：SDGsツール作成ワーキンググループ 2019年度

発行：環境省中部地方環境事務所 中部地方ESD活動支援センター

社会の一員として、すでに行っていることを、振り返ってみる		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、クリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和と公正をすべての人に	17. パートナリシップで目標を達成しよう	SDGs目標との関連チェック！
分類と例示	すでに行っている取組みの内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合計
1. 飲食の提供や管理	食堂、キッチン等の運営管理																		
2. 低・脱炭素エネルギー利用	省エネの実践、再エネ利用																		
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫																		
4. 通勤(通学)、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコカー採用、エコドライブ																		
5. 調達(購入)と廃棄物処理	効率的調達、グリーン購入、地産地消、3R																		
6. 施設とその周辺	環境配慮建築、持続可能性や多様性に配慮した施設や																		
7. 多様なメンバーの公平な参加	教育の推進、役割の公平性、多様な関係者の人権の																		
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの																		
9. その他の仕事(事業)などを通じた貢献																			
	合計																		

【事業所活用版】

SDGsチェックリスト (事業所活用版)

OSDGs目標との関連チェック:①最も関係するSDGs目標(3点×最大1)、②ある程度関係するSDGs目標(2点×最大2)、③少し関係するSDGs目標(1点×最大5) ○取り組み内容が関係するSDGs目標を選んだ理由:複数のSDGsが関係する場合は、それぞれその理由を右端の欄にご記入ください。			SDGsチェックリスト																	SDGs目標の相互関連チェック	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
取組み分野	具体例	取組み内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">製品・サービス・社会貢献</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">製造・調達・企業経営</div> </div>	①持続可能な経済成長と社会的課題の解決	商品・サービスの品質と安全性確保、持続可能で強靱な社会インフラの開発・維持、イノベーションによる持続可能な経済成長、など。																			
	②社会参画と発展への貢献	経営理念に沿った社会貢献活動・CSRの推進、地域社会の幅広い分野・立場の人々との交流を通じた相互信頼の獲得、従業員のボランティア活動支援、など																			
	③消費者・顧客との信頼関係、公正な情報開示	商品・サービスの適切な情報提供、消費者・顧客への誠実対応、責任ある生産と消費、フェアトレード、など。																			
	④環境問題への取り組み	サプライチェーンを含む企業活動を通じた低炭素社会の構築、循環型社会の形成、生物多様性の保全、など																			
	⑤働き方の改革、職場環境の充実、人権の尊重、人材育成	多様な人材(外国人含む)の就労推進、差別や不合理な格差のない雇用管理、ワークライフ・バランスの推進、など。																			
	⑥危機管理の徹底	組織的な危機管理体制の整備、サイバーセキュリティの確保、災害発生時に備えた体制の構築、軍事産業への負担、平和構築など。																			
	⑦公正な事業慣行とガバナンス	透明性の高い経営体制、企業倫理の徹底、持続可能なサプライチェーンの構築、など。																			
合計																					

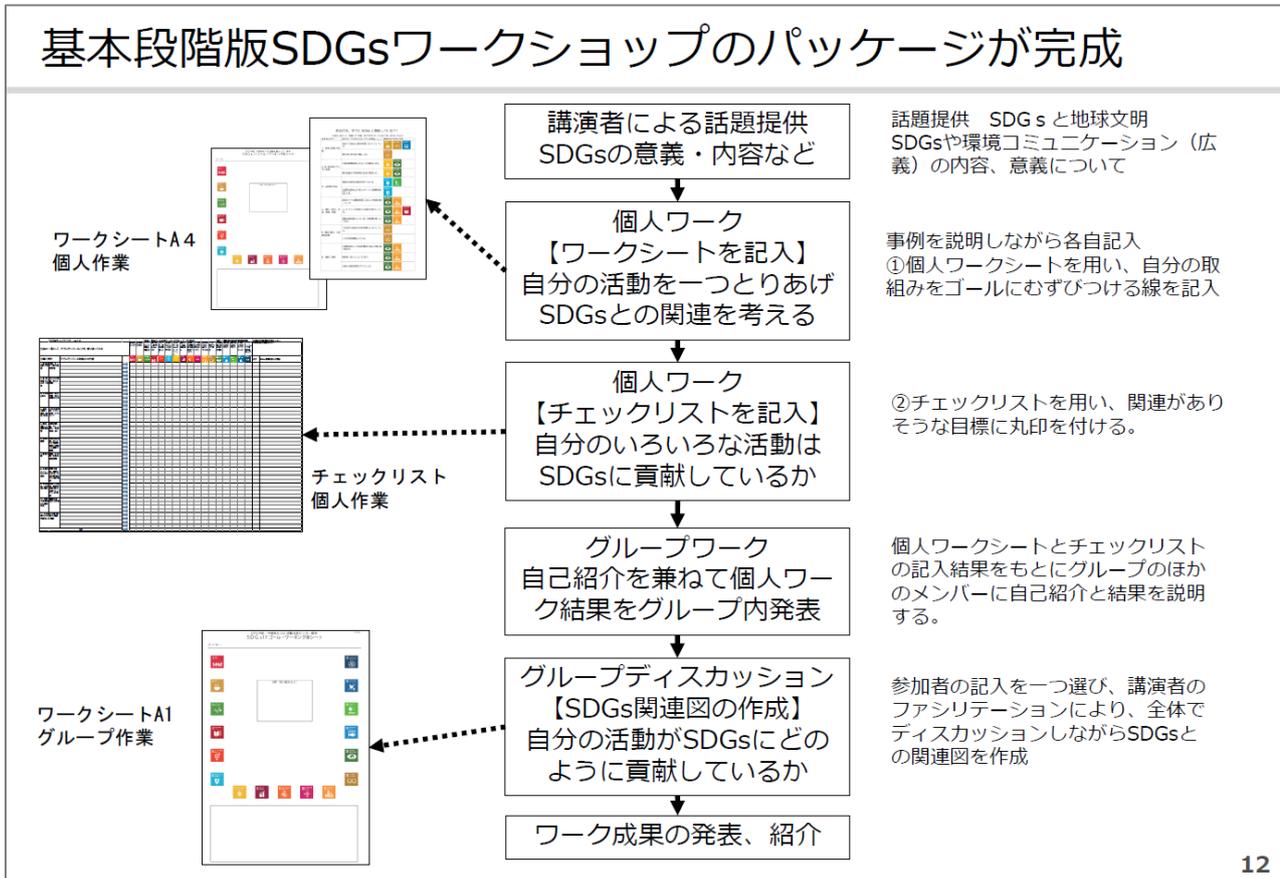
■ 貴社がSDGs達成に特に貢献している分野

■ 貴社がSDGs達成に向けてさらなる取り組みや他団体との連携が期待される分野

監修: 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)作成WG
発行: 環境省中部地方環境事務所
中部地方ESD活動支援センター(環境省・文部科学省)

(ウ) ワークショップ用パッケージの作成

- チェックリストについては、ワークショップ等での活用を念頭に、SDGs17ゴール別の「取組例」を例示する資料と、SDGsについて説明する「スライド」を作成し、SDGsワークショップを実施するためのパッケージ・ツール一式としてESDセンターウェブサイトで公開した。



あなたは、すでにSDGsに貢献している？！

<社会の一員として、「職場」や「事業」などですでに行っていることを、振り返ってみる>

考える入り口	例えば、こんなことをしている場合.....	関係するSDGsの例
1. 飲食の提供や管理	食堂では地元の食材を使うようにしている。	  
	割りばしをやめて、おき箸にした。	
	子ども食堂をやっている。	  
2. 低・脱炭素エネルギー利用	太陽光発電を取入れることを検討する。	 
	冷蔵庫を省エネ型に取り替えた。照明をLEDにした。	 
	電力自由化で低炭素の会社に見直した。	 
3. 水利用と排水	植栽の水まきは雨水を使っている。	 
	洗面所は節水コマをつけトイレを最新節水型にした。	
4. 通勤（通学）、搬送、輸送、配達	配達ルートは最短時間になるよう毎週点検している。	 
	エコドライブを徹底する職員教育をしている。	  
	通勤は自転車で行っている。駐輪場が新しくできた。	 
5. 調達（購入）と廃棄物処理	できるだけ地元の材料を買うようにしている。	
	ごみ分別を徹底している。	
	プラスチック使用を抑制している。	 

<社会の一員として、「職場」や「事業」などですでに行っていることを、振り返ってみる>

考える入り口	例えば、こんなことをしている場合.....	関係する SDGs の例
6. 施設とその周辺	日差しを遮る遮光ガラスにした。	 
	夏は緑のカーテンを設置している。	 
	街路樹の管理を受け持っている。	 
	外国人用に英語の看板とメニューを作った。	
7. 多様なメンバーの公平な参加	男性の育休を推奨している。	 
	部長も課長も女性。	  
	障がい者の職場受け入れをしている。	  
	ベトナムの留学生をアルバイトで雇っている。	  
8. 社会参加と交流	夏祭りの花火大会に協力したり参加したりしている。	
	町内や商店街の一斉清掃に参加している。	 
	学校の運動会に格安でお弁当を出している。	  
	視察や旅行で現地の人との交流会を行った。	 
9. その他の仕事(事業)などを通じた貢献	Web や広告に「地域から SDGs に貢献する〇〇活動!」と具体的な取組みを紹介する。	 
	自分のセクションや活動内容は〇〇を通じて SDGs に貢献している。	?????

SDGsって？実は身近な世界へのつながり



COOL CHOICE

1

1

事例：うどん屋さんもSDGsに取り組んだ

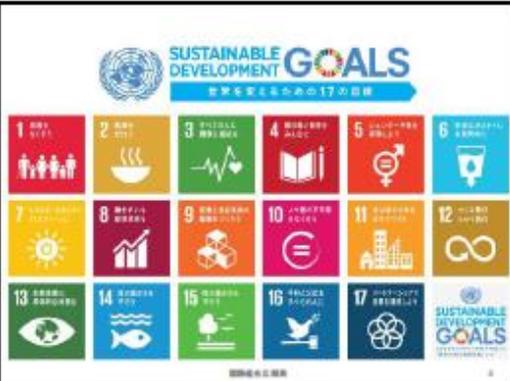


なんでSDGs？
SDGsって何？

メリット	デメリット
①目立つ ②ブランド力向上 ③従業員のモチベーション向上 ④新たな市場獲得	とくになし

2

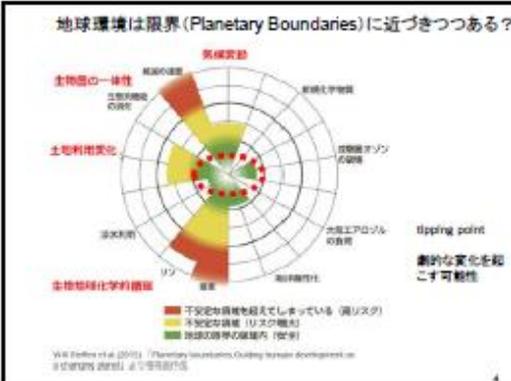
2



3

3

地球環境は限界 (Planetary Boundaries) に近づきつつある？



4

4

持続可能な開発目標 (SDGs)

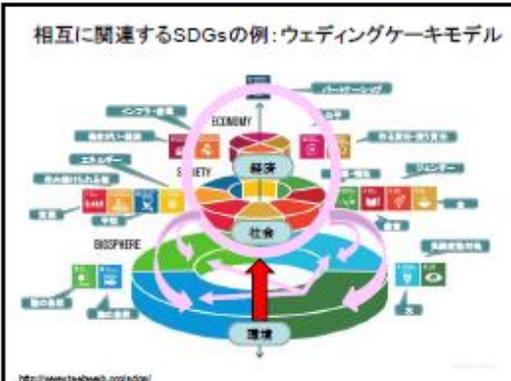
- 持続可能な開発は、**将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義**
- 持続可能な開発を達成するためには、**経済成長、社会的包摂、環境保護**という3つの主要素を調和させることが不可欠

- 2015年9月国連サミットにて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択、2016年1月1日正式発効
- 17の「持続可能な開発目標 (SDGs)」すべての人に普遍的に適用
- 今後15年間、新目標に基づき、各国はその力を結集
- あらゆる形態の貧困に終止符。不平等との闘い。気候変動に対処。
- 誰も置き去りにしないことを確保する

5

5

相互に関連するSDGsの例：ウェディングケーキモデル



6

6

企業行動憲章2017

2017年11月8日 一般社団法人 日本経済団体連合会

経営者では、Society 5.0の実現を遂げたSDGsの達成を柱として企業行動憲章を改定

企業は、国内の内外において次の10原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たす。

(持続可能な経済成長と社会的課題の解決)
 (公正な事業慣行)
 (公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話)
 (人権の尊重)
 (消費者・顧客との信頼関係)
 (働き方の改革、職場環境の充実)
 (環境問題への取り組み)
 (社会奉還と発展への貢献)
 (危機管理の徹底)
 (経営トップの役割と本業業の徹底)

グローバルスタンダードに

7

うちの事業、関係あるの？

あなたの事業活動に大いに関係あります！！

8

あなたの活動もSDGsにつながっている

9

例)うどん屋さんのSDGsの取組み

地元メーカーとの取引を続けることで、地元メーカーと協働し、地域資源の活用と地域経済、雇用を可能にし、持続可能な地域づくりにつなげる

フードマイレージ（地元産食材8割の使用）によりCO2の排出を減らしている

【出典】環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 「企業」がSDGsの推進に果たす役割 - 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催

10

例)うどん屋さんのSDGsの取組み

富裕層や観光客をターゲットにした付加価値のある発展途上層用の「うどんメニュー」を提供することで地域経済の活性化につなげる

発酵食品である味噌煮込みうどんが販売されることで、栄養を取ることができ、健康的な食事をとることができる

【出典】環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 「企業」がSDGsの推進に果たす役割 - 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催

11

例)うどん屋さんのSDGsの取組み

味増が持つ新たな価値を創出するために、発酵食品と薬膳のコラボレーションによる健康を重視した商品を提供できる

お互いの強みを活かした商品を開発することで、地域にとって価値をもつ商品を提供し、経済を生み出し、地域産業の活性化につなげる

【出典】環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催
 「企業」がSDGsの推進に果たす役割 - 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター
 環境省 持続可能な開発目標（SDGs）推進センター 主催

12

あなたは、すでにSDGsに貢献している？！

<企業の一員として、「業務」や「事業」などですでにやっていることを、書き添ってみる>

記入するSDG	例えば、こんなことをしている場合……	関係するSDGsの例
1. 貧乏の撲滅や栄養	食料では地産の食材を多用している。	1. 貧乏の撲滅、2. 健全な食生活
	食のロスや廃棄を減らして、お徳用にした。 子ども食堂をやっている。	1. 貧乏の撲滅、2. 健全な食生活、11. 持続可能な消費の模式
2. 質・低炭素エネルギー利用	太陽光発電を敷設入力することを検討する。	7. 再生可能エネルギー、13. 気候変動への対応
	高効率省エネ工事に取り替えた。照明をLEDにした。 省エネ設備として省エネの会社と連携した。	7. 再生可能エネルギー、13. 気候変動への対応、11. 持続可能な消費の模式

19

あなたは、すでにSDGsに貢献している？！

<企業の一員として、「業務」や「事業」などですでにやっていることを、書き添ってみる>

記入するSDG	例えば、こんなことをしている場合……	関係するSDGsの例
3. 持続可能な消費の模式	商品の水足迹や炭素足迹を管理している。 食品の賞味期限を短くついでに賞味期限を延長した。	3. 持続可能な消費の模式、12. 持続可能な消費の模式
8. 産出（雇用）、成長、創出、富強	派遣もとは雇用の増進による増進を促進している。 エコドライブやテレワークを推進する施策を実施している。 活動は社内専任でしている。社外で実施してある。	8. 産出（雇用）、成長、創出、富強、13. 気候変動への対応、11. 持続可能な消費の模式
9. 産業（輸入）と雇用創出	できる限り海外の材料を調達している。 グローバル展開している。 クラウドサービス展開している。	9. 産業（輸入）と雇用創出、11. 持続可能な消費の模式、13. 気候変動への対応

20

あなたは、すでにSDGsに貢献している？！

<企業の一員として、「業務」や「事業」などですでにやっていることを、書き添ってみる>

記入するSDG	例えば、こんなことをしている場合……	関係するSDGsの例
6. 清潔な水と衛生	自然し水資源を節減している。	6. 清潔な水と衛生、12. 持続可能な消費の模式
	節水器具の導入や設置している。	6. 清潔な水と衛生、12. 持続可能な消費の模式
	節水器具の導入や設置している。	6. 清潔な水と衛生、12. 持続可能な消費の模式
7. 多様なエネルギーの活用	再生可能エネルギーを推進している。	7. 再生可能エネルギー、13. 気候変動への対応
	節電も推進している。	7. 再生可能エネルギー、13. 気候変動への対応
	節電も推進している。	7. 再生可能エネルギー、13. 気候変動への対応

21

あなたは、すでにSDGsに貢献している？！

<企業の一員として、「業務」や「事業」などですでにやっていることを、書き添ってみる>

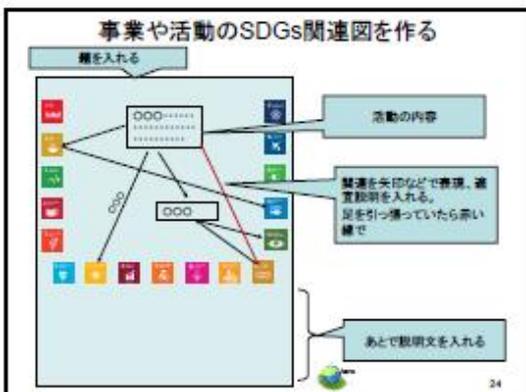
記入するSDG	例えば、こんなことをしている場合……	関係するSDGsの例
9. 社会参加と交流	業界内の交流大会に参加したりしている。	9. 社会参加と交流、11. 持続可能な消費の模式
	地域の自治体やNPOと連携している。	9. 社会参加と交流、11. 持続可能な消費の模式
	学術の研究会に参加して報告を出している。	9. 社会参加と交流、11. 持続可能な消費の模式
10. その他の社会（多国籍）などを通じた貢献	海外や海外で活動の人の交流会を行った。	10. その他の社会（多国籍）などを通じた貢献、11. 持続可能な消費の模式
	Webで広域に「地域からSDGsに貢献するSDG活動」と具体的な取り組みを紹介する。 自分のセクションや活動の目標をSDGsに関連している。	10. その他の社会（多国籍）などを通じた貢献、11. 持続可能な消費の模式

22

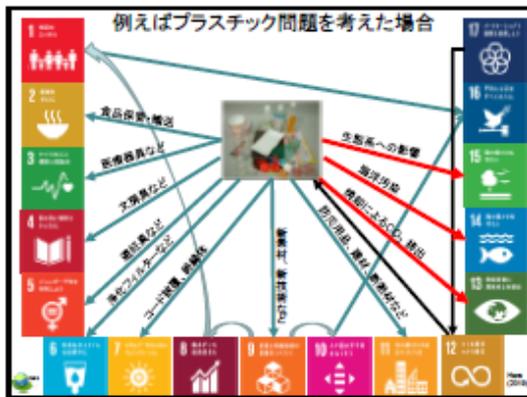
WS2. グループでチェックリストを元にSDGs関連図を作る

- 真ん中に活動事例の概要を記入する。
- 関係するアイコンと矢印や模式図でつなぐ。
- 貢献していることもあれば、足を引っ張っていることも。

23



24



25

WS3. SDGs関連図を踏まえて説明文を作る

- ・「概要」、「説明」、「まとめ」の順に説明文を作ってみる
- ・テーマを一番上に記入する

26

説明を作る

一番上をテーマを記入

●概要(結論)
この活動は……というもので、SDGsのゴール〇、ゴール〇…に貢献しています。

●説明
ゴール〇には……という形で貢献しています。ゴール〇に貢献することで〇〇の結果をもたらしゴール〇に貢献しています……

●まとめ
今後ゴール〇への貢献を強くなるために……新たにゴール〇へ貢献するために……うちの活動がこいでしょ！

27

WS4. 結果を話してみよう

- ・結果を皆さんに説明してみよう

28

最後に

- ・あなたはすでにSDGsに取り組んでいます。
- ・あなたにとっての身近なSDGsの取組みは地球文明の持続可能性に貢献します。
- ・すでにSDGsに貢献している取組みは、その良さを多方面に伸ばしましょう。
- ・もしSDGsの足を引っ張っていることがあれば、なるべく減らす努力をしましょう。

29

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト公開】

2020.03.16 SDGsチェックリスト

新バージョン完成！「SDGsチェックリスト」をご活用ください

SDGsチェックリストとは、中部地方ESD活動支援センターが作成した、事業や活動を17のゴールに関連付ける、気づきのためのチェックリスト型ツールです。

- SDGsチェックリスト（基本段階版）
事業や活動をリスト化してチェックし、SDGsとの関連を考えます。

チェックリスト活用のため、こんなツールを用意しました。（使い方は工夫次第！）

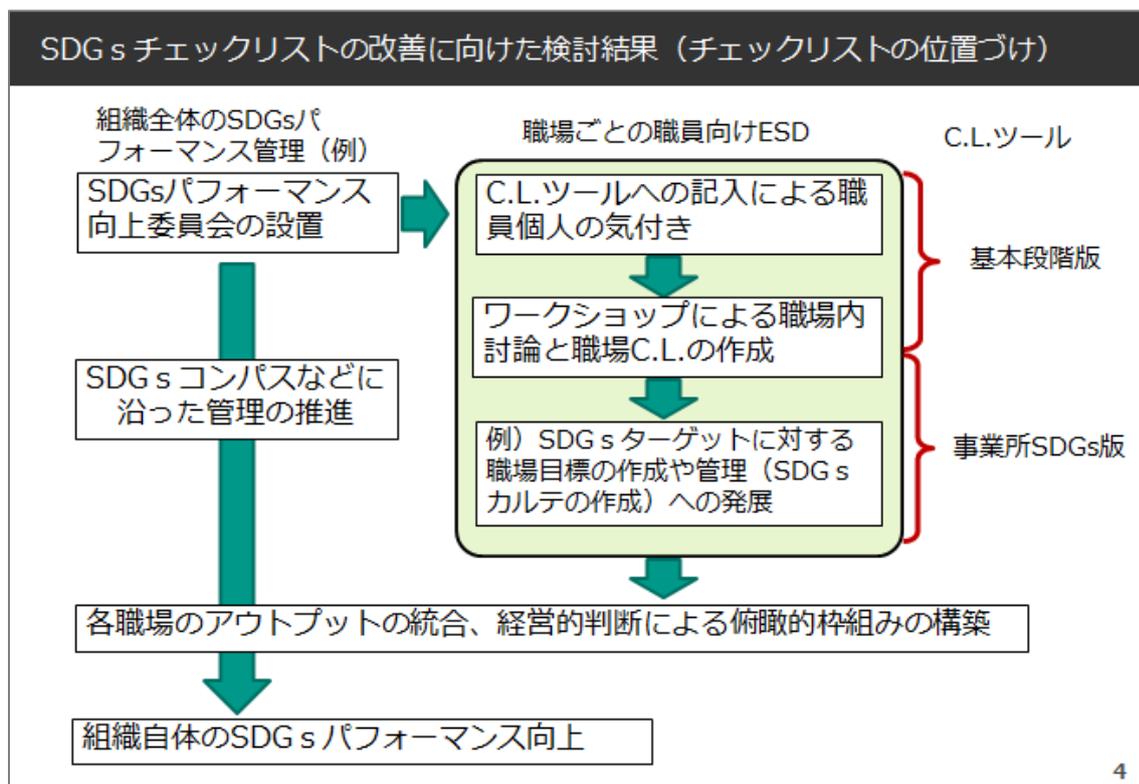
- 取組とSDGsの関係を考える事例シート
- 個々の取組とSDGsの関係を考えるワークシート
- SDGsワークショップパッケージスライド

また、さらなるSDGs取組のため「事業所SDGs版」を用意しました。

- 事業所SDGs版チェックリスト
- 参考：SDGsチェックリスト活用ガイド

イ 専門家を含めた作成ワーキンググループ

- SDGs チェックリスト等の改善・改訂にあたっては、専門家を含めたワーキンググループを2回開催し、検証結果を確認しながら改善すべき点等について検討を行った。



(ア) 第1回ワーキング

① 日時

- 7月17日(水) 16:00~17:30

② 場所

- EPO 中部

③ 出席者

(SDGs ツール作成ワーキンググループ委員)

氏名	所属	役職
古澤 礼太	中部大学 国際ESDセンター	准教授
曾我 幸代	名古屋市立大学 人文社会学部	准教授
伊藤 佳世	中部大学 経営情報学部	准教授

(ファシリテーター) 中部地方ESD活動支援センター 責任者 原 理史

(事務局担当) EPO 中部 清本三郎、富田夏子

(オブザーバー) 環境省中部地方環境事務所 溝手康人企画係長、西田清紀主査



④ 議事次第

1. 挨拶、趣旨説明
2. 今年度計画説明(基本段階版の検証、事業所活用版の作成)
3. 検証計画と実施状況の説明
4. ディスカッション

下記論点を踏まえてブレインストーミング

- ・ 検証の解釈と方法の改善
- ・ チェックリスト改善点
- ・ 使い方のパッケージング

5. まとめ、第2回開催日程調整

⑤ 会議資料

- 資料1: チェックリストの作成(検証・改善)と作成WGについて
- 資料2: 事業所活用版
- 資料3: 基本段階版(昨年度制作分)
- 参考資料1: 「あなたの会社ができることは?」(伊藤委員提供)
- 参考資料2: 「中小企業のためのSDGs入門ワークショップ」(伊藤委員提供)

(イ) 第2回ワーキング

① 日時

- 10月23日(水) 16:00~17:30

② 場所

- EPO 中部

③ 出席者

(SDGs ツール作成ワーキンググループ委員)

氏名	所属	役職
古澤 礼太	中部大学 国際ESDセンター	准教授
曾我 幸代	名古屋市立大学 人文社会学部	准教授
伊藤 佳世	中部大学 経営情報学部	准教授

(ファシリテーター) 中部地方ESD活動支援センター 責任者 原 理史

(事務局担当) EPO 中部 清本三郎、富田夏子



④ 議事次第

1. 第1回の振り返り
2. 第1回を受けた基本段階版の修正と検証
3. 事業所活用版と今後の取り扱い
4. まとめ

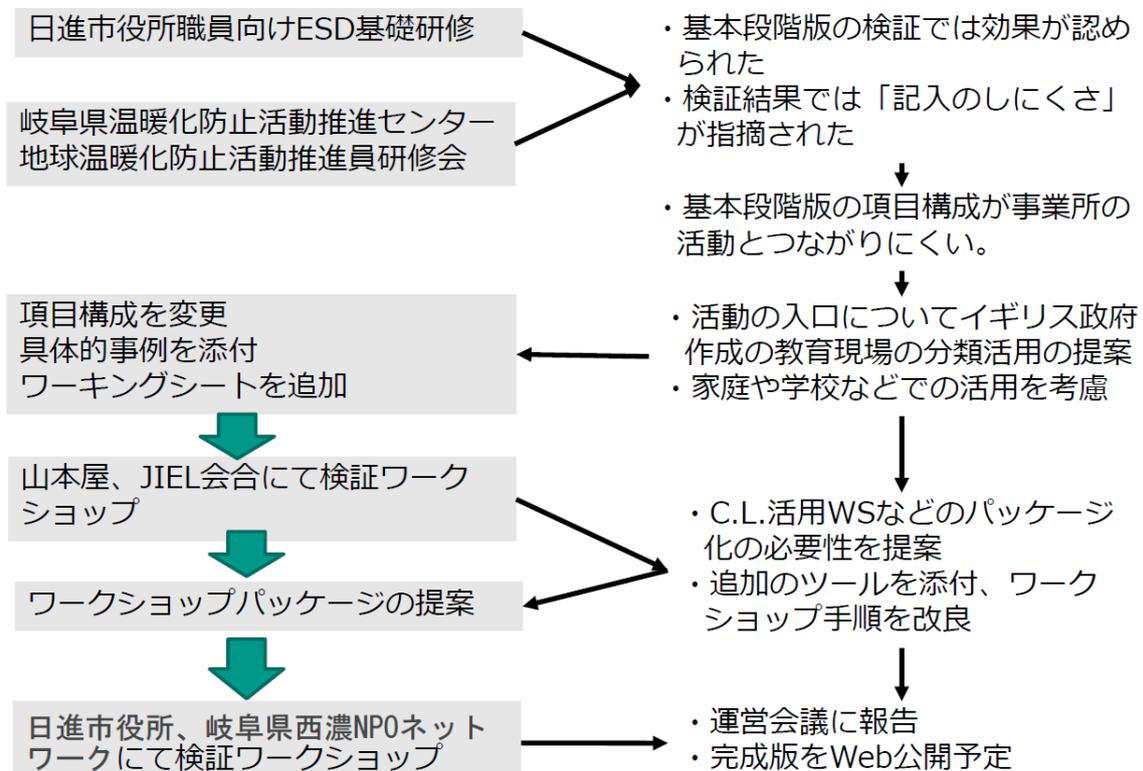
⑤ 会議資料

- 資料1：第1回ミーティング議事概要
- 資料2：第2回ミーティング説明資料
- 資料3：基本段階版 SDGs チェックリスト Vr. 1.10 及び事例シート
- 資料4：基本段階版 SDGs ワークショップパッケージスライド資料
- 資料5：事業所活用版 SDGs チェックリスト（現在案）

ウ ESDのためのSDGsチェックリストの活用（ワークショップの開催）

- 作成ワーキンググループによるSDGsチェックリストの検証にあたり、SDGsチェックリストを実際に使用したワークショップを実施している。
- また、検証ワークショップでは、EPO 中部・協働コーディネーターがファシリテーター、観察者として参加し、一般参加者の反応やグループワークでの様子（使い勝手の難易度）などに関するレポートを提出している。

検証過程とWGミーティングの主な結果と対応



(ア) 第1回ワークショップ

① 日時

- 5月28日(火) 10:00~12:00

② 場所

- 日進市役所 南庁舎 2階 第5会議室 (愛知県日進市)

③ 出席者

- 41名 (うち日進市役所職員 34名)

④ プログラム

10:00~ 挨拶 (5分)

10:05~ 講演 (50分)

「ESDを推進して日進市の環境まちづくりを！」

原 理史 氏 (中部地方 ESD 活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所)

10:55~ ワークショップ~「ESDのためのSDGsポイントチェックリスト」を用いて~ (55分)

(1) 個人ワーク (2) グループワーク (3) 発表 (4) まとめ

11:50~ 日進市環境課による諸連絡 (10分)

12:00 終了

⑤ 配布資料

- 資料1: ESDを推進して日進市の環境まちづくりを!
- 資料2: ESDのためのSDGsポイントチェックリスト



(イ) 第2回ワークショップ

① 日時

- 8月29日(木) 15:00~17:00

② 場所

- 大久手山本屋 (愛知県名古屋市)

③ 出席者

- 21名

④ プログラム

15:00~ 挨拶 (5分)

15:05~ 講演 (60分)

「SDGsとは何か」

原 理史 (中部地方 ESD 活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所)

16:05~ ワークショップ

~SDGsチェックリストを用いて社員の一員としてすでに行っていることを振り返る~ (55分)

(1) 個人ワーク (2) グループワーク (3) 発表

17:00 終了

⑤ 配布資料

- 資料1 あなたは、すでにSDGsに貢献している?!
- 資料2 SDGsチェックリスト



(ウ) 第3回ワークショップ

① 日時

- 12月14日(土) 16:00~18:00

② 場所

- 大垣市多目的交流イベントハウス(岐阜県大垣市)

③ 参加者数

- 23名

④ プログラム

1. 趣旨説明(5分)
2. 挨拶(5分)
3. 協働コーディネーター紹介(5分)
4. 話題提供(30分) 「SDGsとは何か~企業・団体にとってその意味を考える」
原 理史 氏(中部地方ESD活動支援センター・中部大学中部高等学術研究所)
5. ワークショップ1 ~自分の活動はどのようにSDGsに貢献しているか~
個人ワーク(15分)
ワークショップ2 ~SDGsに貢献していることを人に伝える(SDGsのPRに役立てよう!)~
グループワーク・発表(50分)



⑤ 配布資料

- 資料1 あなたの取組とSDGsのつながりを考えよう!
- 資料2 SDGs17ゴール・ワーキング用シート
- 資料3 SDGsチェックリスト
- 資料4 あなたは、すでにSDGsに貢献している?!
- 資料5 アンケート

(エ) その他のSDGsチェックリスト活用

- 前項の検証ワークショップのほか、様々な機会です「SDGsチェックリスト基本段階版」を用いた体験ワークショップを行っており、そこでのアンケート結果等も検証材料とした。

6月15日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施(12:45~15:45JR岐阜駅ハートフルスクエアG中研修室)
8月31日	日本体験学習研究所(JIEL)★講演に合わせて実施(名古屋市内13:15~14:15 60分)
11月4日	ESDネットワーク地域フォーラム(※次項参照) …後半グループワーキングでワーキング用シートを活用
11月25日	日進市役所職員向けESD基礎研修にて実施(日進市役所第5会議室10:00~12:00 120分) (第1回とは別メンバー)

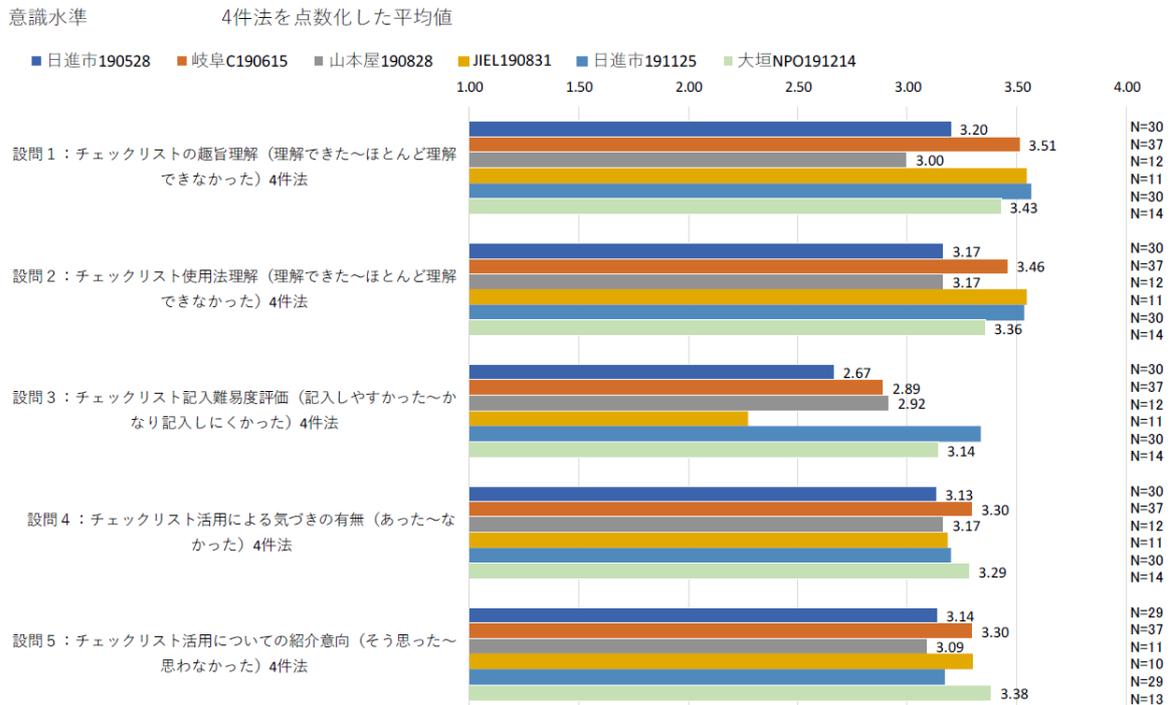
【その他主体からのチェックリスト、ワークシートの活用・提供依頼等】

- 金融機関系シンクタンクの方から…SDGsのセミナー登壇の際に配布した(事後報告)
- 11/4開催フォーラム登壇の高校生の引率教師から…授業でのワーキング用シートの使用要望があり提供
- ほかにチェックリストをセミナーで配布して良いかの問合せあり

(オ) 活用ワークショップの結果

検証アンケートの比較

初心者でも理解や書きやすさは肯定的（山本屋）。教育専門家は書きにくさを指摘（JIEL）。ワークショップ手順を改良して書きにくさを改善（日進市2回目、大垣NPO）



検証の主な成果

改善型チェックリストを用いたワークショップの効果

- 様々な対象について新しい気づきが見られ、ESD効果は大きい
 - ・あまり知らない一般の人（初心者）にも効果があることが確認された
 - ・専門家などSDGsやWSに懐疑的、批判的な参加者については効果に限界がある
- 注目される気づき
 - ・SDGsは関係ないと思っていたが実は関係があること
 - ・業務が複数のSDGsに関連していること
 - ・これまで気づいていなかった関連性があること
- パッケージとして使うことで取扱いがしやすくなると考えられる

課題と対応の方向

- 課題
 - ・ネガティブイメージを形成する可能性もある
 - ・無理やり紐づけているという意識に抵抗が発生する場合がある
 - ・トレードオフの場合が発生する
 - ・内容がわかりにくい（SDGsそのものの理解？説明？）
- 対応の方向
 - ・SDGsが一種の理念であることを提示した方がよいか？
 - ・負の影響についてしっかり説明する
 - ・トレードオフの場合について説明をする

11

(カ) ワークショップ実施主体等への事後調査

調査方法	電話ヒアリング	調査日	2020年2月26日
調査対象イベント	SDGs チェックリスト WS①日進市 実施日 5月28日 (番外実施：11月25日)		
調査対象者	日進市環境課 片岡係長		
調査結果	自身の職務(活動)にどのような効果・影響を受けたか	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs アイコンによる持続可能性の意識化の効果があったと思っている。 ・SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが大事だと感じた。 ・環境課としても今後 SDGs を意識した仕事の仕方を続けていきたい。 	
	地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか	<ul style="list-style-type: none"> ・課内でワークショップの内容について話をしている。 ・市役所庁内に環境課から発信する「環境瓦版」というメール配信があるが、ここにもワークショップの開催を取り上げて配信した。 ・庁内のESD 推進会議の報告には2回のワークショップの報告を掲載する予定である。 ・次年度の基礎研修として、別の職員に本ワークショップの実施をお願いできればと考えている。 	

調査方法	電話ヒアリング	調査日	2020年2月26日
調査対象イベント	SDGs チェックリスト WS②山本屋 実施日 8月29日		
調査対象者	有限会社山本屋 青木専務		
調査結果	自身の職務(活動)にどのような効果・影響を受けたか	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに活動してきたことではあるが、SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが改めて大事だと感じた。今後も SDGs を意識した営業を続けていきたい。 	
	地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催結果の情報発信については SNS での発信や麺類生活衛生協同組合の会合での発表などを行っている。 ・店内で SDGs の話を麺うち職人さんとしている。職人気質の彼らは「上からそんなことを言われているが、ずっとやってきたことじゃないか」と改めて自分の周りを配慮した仕事の大切さを認識しているようである。 ・月一回の近くのうどん屋さんなどの地元業界関係者の定例の会合でも SDGs の話題は出ている。例えば「捨てていた麺の切れ端を素揚げしてお通しに出すよう考えた」など、ワークショップに参加した年配者たちが、結構自分たちも関係していると思い始めている。 	

調査方法	電話ヒアリング	調査日	2020年2月26日
調査対象イベント	SDGs チェックリスト WS③西濃環境 NPO ネットワーク 実施日 12月14日		
調査対象者	NPO 法人泉京・垂井 河合良太氏		
調査結果	自身の職務(活動)にどのような効果・影響を受けたか	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと SDGs の活動をしてきたこともあり、意識が大きく変わったということはないが、大所高所からの話だけでなく、ワークショップで身近な活動が SDGs に関わっているということに気づかされたと思う。 ・SDGs や持続可能な社会についての理解が深まり、SDGs に貢献することが改めて大事だと感じた。今後も SDGs を意識した活動を続けていきたい。 	
	地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催結果については、知り合いや関係者に話す他、SNS でも掲載した。また活動報告書には掲載する予定である。 ・西濃 NPO ネットワークとして関係者の SDGs 理解の共通基盤ができたと思う。 ・関係者と話をしていて、上から言われるのではなく、自分の活動としての評価が重要との話を何人かから聞いている。 ・NPO 法人泉京・垂井でも SDGs 講座や企業とのコラボイベントを展開、実施しており、定員いっぱいになるなど盛り上がりを感じている。 	

(2) ESD 活動の支援等

- 前項「2 運営会議の設置・開催」の章を参照。

(3) ESD 活動のネットワーク形成に係る業務

ア 「全国 ESD センター」開催会議・イベントへの出席

区分	回/開催日	対応状況
企画運営委員会	第1回 7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ● 傍聴案内(一般、取材含む)が6月25日に全国センターから発信された。 ● 5月16日開催・全国 ESD センター連絡会において、8 地方センターを代表して四国センターが出席することになり、意見照会あった。(他センターの意見に同調するものと、特に中部センターとしての意見提示は行わなかった。)
	第2回 -	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりメール会議となった。)
連絡会	第1回 5月16日	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席。 ● 開催にあたり、依頼のあった業務実施予定表等の資料を作成・提出した。
	第2回 10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席。 ● 開催にあたり、依頼のあった業務実施一覧表等の資料を作成・提出した。
	第3回 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席。 ● 開催にあたり、依頼のあった業務実施一覧表等の資料を作成・提出した。
ESD 推進ネットワーク意見交換会	10月16日	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席(オブザーバー参加)。
全国フォーラム	12月20日 -21日	<ul style="list-style-type: none"> ● 出席。 ● 分科会ではテーマ「体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成」に参加した。

イ ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催

(ア) 第1回ダイアログ

① 日時

- 6月13日(木) 13:30~16:30

② 場所

- 福井県国際交流会館 2階 第2会議室(福井県福井市)

③ 出席者

- 24名

④ プログラム

開会・ご挨拶 萩ノ脇 裕司 氏(環境省中部地方環境事務所環境対策課 課長)

第1部 企業や団体がSDGsに取り組む意義

話題提供1: SDGs とは何か、世界と我が国の動向

西田 清紀 氏(環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査)

話題提供2: 確かな暮らしが営まれる美しい信州

~学びと自治の力で拓く新時代~

保科 千丈 氏(長野県企画振興部総合政策課 総合調整幹)

話題提供3: 企業ができるSDGs~名古屋青年会議所の取組~

青木 裕典 氏(有限会社山本屋 専務取締役)

公益社団法人名古屋青年会議所 SDGs 実践委員会)



話題提供 4：県内青年会議所としての取組

藤原 徳人 氏（公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区
2019年度福井ブロック協議会 副会長）

第2部 ダイアログ「SDGsを意識させるESD」

トークセッション登壇者：西田 清紀 氏
保科 千丈 氏
青木 裕典 氏
藤原 徳人 氏

ファシリテーター：原 理史 氏（中部地方ESD活動支援センター）

⑤ 会議資料

- 資料1 プログラム
- 資料2 SDGsの世界情勢（環境省）
- 資料3 確かな暮らしが営まれる美しい信州～学びと自治の力で拓く新時代～
- 資料4 企業ができるSDGs～名古屋青年会議所の取組～
- 資料5 質問記入票
- 資料6 参加者アンケート
- 資料7 EPO 中部・中部地方ESD活動支援センターリーフレット
- 資料8 持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド
- 資料9 ESD/SDGsパンフレット&チェックリスト

(イ) 第2回ダイアログ

① 日時

- 8月8日（木）13：30～16：30

② 場所

- 金沢勤労者プラザ 101 研修室（石川県金沢市）

③ 参加者数

- 54名

④ プログラム

開会挨拶 加藤 隆弘 氏（北信越ユネスコスクール交流会 in 金沢 2019 実行委員長）

ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向

鈴木 克徳 氏（ESD活動支援センター 副センター長）

『金沢SDGs IMAGINE KANAZAWA 2030』の推進について

笠間 彩 氏（金沢市都市政策局企画調整課 主査）

私がESDで大切にしていること～5年・6年の2か年の総合の実践から～

尾島 良幸 氏（富山県舟橋村立舟橋小学校 教諭）

スモールグループによる討議・発表準備

各グループからの発表

⑤ 配布資料

- 資料1 プログラム・ESDの取組資料・年次報告書
- 資料2 ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向
- 資料3 金沢SDGs IMAGINE KANAZAWA 2030『私たちが目指す世界』（ハンドブック）
- 資料4 私がESDで大切にしていること～5年・6年の2か年の総合の実践から～
- 資料5 参加者アンケート
- 資料6 その他（「中部西ブロック・ユネスコ活動研究会 in 金沢」（開催案内）



(ウ) 第3回ダイアログ

① 日時

- 11月16日(土) 13:30~16:30

② 場所

- 飯田市役所(本庁舎) C棟3階・C311-313号会議室(長野県飯田市)

③ 参加者数

- 36名

④ プログラム

開会挨拶 牧野 光朗 氏(飯田市長)

講演「ユネスコエコパーク×ESD:人と自然が共生する持続可能な社会づくり」

水谷 瑞希 氏(信州大学教育学部助教)

講演「ESDによる地域創生—ESDの持つ地域創生力—」

阿部 治 氏(立教大学教授、同ESD研究所長、ESD活動支援センター長)

話題提供(国内BRの取組紹介)

「ユネスコエコパークにおける只見愛の育成とESDへの期待」

齋藤 修一 氏(只見町ブナセンター長)

話題提供(飯田市の取組紹介)

「学校と地域が協働するESD for SDGs」

村松 亮彦 氏(飯田市立上村小学校長)

田中 清一 氏(飯田市教育委員会事務局学校教育課教育指導主事)

話題提供(飯田市の取組紹介)

「高校生講座 カンボジア・スタディツアーの取組について」

片岡 博昭 氏(飯田市公民館学習支援係主査)

グループディスカッション「ユネスコエコパークの理念を活用したESD視点による地域づくり」

⑤ 配布資料

- 資料1 プログラム
- 資料2 ユネスコエコパーク×ESD:人と自然が共生する持続可能な社会づくり
- 資料3 ユネスコエコパークにおける只見愛の育成とESDへの期待
- 資料4 高校生講座 カンボジア・スタディツアーの取組み報告
- 資料5 ユネスコエコパークの理念を活用したESD視点による地域づくり
- 資料6 参加者アンケート



ウ ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

(ア) 開催概要

① 日時

- 11月4日(月・祝) 13:30~16:30

② 場所

- ウィンクあいち 会議室1103(愛知県名古屋市)

③ 参加者数

- 52名

④ プログラム

※ 司会:武田莉奈(CSOラーニング制度インターン派遣大学生/p165参照)

開会の挨拶

講演「世代間協力で実現するSDGs」伊藤 恭彦 氏(名古屋市立大学 副学長)



企業による SDGs の取組紹介

「2030 年も元気な組織であるために～小さな会社が取り組む SDGs～」

鳥原 久資 氏 (株式会社マルワ 代表取締役社長)

「カンガルー出勤で変わった社内環境」

寺田 有希実 氏 (三承工業株式会社 ダイバーシティ推進室室長 女性活躍・働き方改革担当)

高校生による活動発表

「人力発電機の製作～若いエネルギーを電気エネルギーに～」

愛知県立刈谷工業高等学校 自動車部

「ボランティアから始まった環境保護活動」

名古屋経済大学高蔵高等学校 理科部

「命をつなぐ! 弥富の手乗り文鳥よ再び!」

愛知県立佐屋高等学校 文鳥プロジェクトチーム

「未利用資源を活用した 6 次産業化への取組」

愛知県立渥美農業高等学校 農業機械部

グループワーク「高校生による ESD 活動の社会への発信連携を考える」

講評

⑤ 配布資料

- 資料 1 プログラム
- 資料 2 世代間協力で実現する SDGs
- 資料 3 「MARUWA CSR REPORT2018」、「ぷりんトーク」(2019 夏号・No. 86)
- 資料 4 女性も輝く働きがいある会社づくり
- 資料 5 SDGs17 ゴール・ワーキング用シート (後半「グループワーク」時に使用)
- 資料 6 参加者アンケート

(イ) フォーラム登壇者等への事後調査

調査方法	電話ヒヤリング	調査期日	2020 年 3 月 4 日
調査対象イベント	ネットワーク地域フォーラム (世代間交流による SDGs 貢献のための人づくり)		
調査対象者	愛知県立渥美農業高等学校 農業機械部 眞壁先生		
調査結果	自身の職務(活動)にどのような効果・影響を受けたか	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、フォーラムで発表したことにより、活動が参加者に認められ、自分たちがやっているミニトマトを材料としたパン作り(農業の6次産業化)や竹林の手入れから生まれた凧作り(竹林の管理保全)の活動に自信が持て、自己肯定感を実感することができた。 ・今後、活動を地域と連携して展開していくための、新たなエネルギーを得ることができた。 	
	地域や関係者等への主体的な学びの発信につながったか	<p><活動1: ミニトマトを材料としたパン作り(農業の6次産業化)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン屋さんと連携したミニトマトのパン作りから、その後、豊橋市内のホテルと連携し、ミニトマトを使った新たなメニュー開発に取り組んでいる。今後は、観光面においても寄与できるような展開を目指して活動をしていきたい。 <p><活動2: 竹林の手入れから生まれた凧作り(竹林の管理)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元、田原市の凧保存協会に竹林の管理と凧作りの活動を説明し、春の公式凧合戦に参加見込みとなった。今後は、地域の凧保存会と連携し、地域における竹林の保全活動を広めていきたい。 	

エ ダイアログ・フォーラムの参加者アンケート結果

- 4つのダイアログ及びフォーラムの参加者を対象にしたアンケートでは、参加した感想で「良かった」と答えた回答者が多く、全般的に好意的に評価されている。
- しかし、参加者同士の交流については、飯田ダイアログで「あまり交流できなかった」の回答が多く、グループディスカッションで十分な時間を取るよう望む声や、ワーキングの容量が多いため中途半端なディスカッションになったなどの意見が寄せられており、時間配分やワーキング内容について企画の際には留意が必要である。
- 役立つ情報や事例について、4つの催事とも「あった」の回答が多い。また、いずれの催事でも、「もっとSDGsやESDに協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられた内容だった」と答えた回答者が多く、参加者の今後の取組に対する刺激につながったことがうかがえる。

	●今回の催事はいかがでしたか					●ディスカッション等でほかの参加者と十分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	十分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
190613ESDダイアログ福井 (n=9)	5	4	0	0	0	0	3	2	0	4
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	22	13	0	0	0	14	19	2	0	0
191116ESDダイアログ飯田 (n=17)	11	6	0	0	0	2	5	7	1	2
191104ESD推奨フォーラム名古屋 (n=42)	31	11	0	0	0	18	19	0	1	4

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか				●SDGsやESDに今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答	もっとSDGsやESDに積極的に取り組んでいきたいと感じられた内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	SDGsやESDに取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
190613ESDダイアログ福井 (n=9)	7	0	1	1	8	1	0	0	0
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	33	0	2	0	30	3	0	0	2
191116ESDダイアログ飯田 (n=17)	14	1	2	0	11	5	0	0	1
191104ESD推奨フォーラム名古屋 (n=42)	31	2	9	0	31	4	0	6	1

【役立つ情報や事例（自由記入）】

190613 ESDダイアログ福井	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な取組事例を知ることができた。 ● SDGsとはどんな取組みか？ ● 自治体におけるSDGsについては、特別なことを新たに実施するというのではなく、既存の事業をまず当てはめてという長野県の事例が参考になった。 ● 県内・県外の取組みが分かり、その中で自分がどのような関わりができるのか考えるいい機会となりました。 ● “世界の道徳” ● 協賛金のみで大きな事業もできるんだなど。
-------------------	---

<p>190808 ESD ダイアログ 金沢</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 3つの講演は本当に学びになった。そして話し合いは内容が濃かった。 • ESD/SDGs について、より明確になった。子ども主体の学び方の大切さを感じた。グループでの話し合い事例発表 • ESD と SDGs のかわり。舟橋小学校の実践から目指す子供像が具体的に理解できた。 • ESD についての様々な考え方や方法を知ることができた。具体的に何かをするということも大切だが、今ある活動を ESD や SDGs の視点から見る意識も必要だと分かった。 • SDGs の考えを入れた方が子どもも取り組みやすいかも…と思いました。10年後の自分をイメージするというのは、いいアイデアだと思います。 • 各校の実践はもちろん ESD に関わる人々の情報（教育に直接関わってない方からの）が目新しく、勉強になりました。 • 教育現場の体験と ESD・SDGs のつながりがみえてきた。 • 金沢市の取組。尾島先生の実践。 • 金沢市当局、尾島先生の発表がかなり良かったです。何らかの形で実践したいです。 • 経済教育、市民教育が大切であるという視点。 • 現在の活動で PR や発表をしなければいけなかったが、アドバイスをいただき、実践してみようと思った。尾島先生が子どもと楽しみながら活動されている報告を聞いて自分も楽しんで活動しようと思った。 • 子どもの思いを基に進めている舟橋小の実践 • 実践発表 • 若い先生方が学校の中で ESD 等を進める上で困難と出会っていることを理解できた。 • 舟橋小の取り組みにあったように子ども達が自分達で考えて行動できるように計画を立てていきたい。 • 小学校現場での実践例 • 先生方の構え。ESD/SDGs の関連性。 • 全て • 他県での取り組みや ESD/SDGs の専門的知識 • 他地域の取組が分かってよかった。ESD の最新の動向が知れてよかった。 • 地域に関わる深い考えが聞けて良かった • 地域の未来を担っていくのは、自分たち!!という意識を子どもたちに持ってもらうのが大事という当事者意識を持つことへのプロセスをどのように企画し、実践していくのが、各グループの発表から感じられた。 • 地域や企業がたくさん SDGs に取り組んでいることが分かった。他校の良い取り組み（舟橋小の取り組みなど） • 地域や行政との連携について • 尾島先生の講演が良かった。 • 尾島先生の思い、教育観に触れ、とても素敵だと思いました。子どもの願いに寄り添い、主観的な学びを支える教師の役割に改めて気づきました。 • 尾島先生の実践から子どもが自ら課題を立てることの大切さと有効さを学びました。また、活動する中でうまくいかないことがあっても、解決のためにどうするか考えることで結果が出るということも学びました。 • 尾島先生の発表・講演 • 富山市で ESD が浸透しているのを実感した。先生方がとても意欲的なのが印象的だった。 • 本校の ESD 活動について生徒にもう一度 ESD (SDGs) の認識をすること。そうすることが地域を元気にすること、生徒の意欲づけにつながると思った。
<p>191116 ESD ダイアログ 飯田</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ESD 単体で取り組まない。他とつながっている。 • 上村（小学校の事例） • 教育活動に携わる者として、今やっている事業が何を指して、どんな効果が得られるのか、考える手段を知れた。 • 小学校教員だが、教育実践に生かせるものがあつた。 • 只見の事例 • 只見の事例に ESD を進める上での重要なヒントがありました。地域を知る→地域のことを書く→地域のことを語る。そのプロセスを通じた地域を育む人をつくることの重要性を再認識。 • 只見町の事例から、「ユネスコエコパーク」の悩み。ESD と SDGs について。 • 只見町の取組（只見学） • 他の地域の取組など学びになった。

	<ul style="list-style-type: none"> 本校でも SDGs を見える化（掲示物、子どもの係活動の目標との関連付け等）をしているので、今後もより充実していくよう取り組もうと思いました。 理論的な整理と、具体への当てはめ+全体構造をみてその意義や展開について考えた点。
191104 ESD 推進 フォーラム 名古屋	<ul style="list-style-type: none"> 「出来ることから始める」のではなく、「出来ていないことに挑戦しよう」という一文がとても良かった。 PR の仕方など 新しい時代を担う世代から学ぶことが多い一日でした。常に、他者の視線からの考えを学ぶ姿勢を忘れずにいたいと再認識した一日となりました。 川にゴミを捨てないようにしようと思った。 カンガルー出勤の話 企業との連携や地域との協力は大切であると感じました。 企業の情報など グループ発表と学生の事例 高校生だけでは活動が限定される所を企業や官と協力（コラボ）することにより、様々な問題を解決していく点が本校には不足しているので、今後の活動の中での大きなヒントとなりました。ありがとうございました。 高校生のアイデア、ユニークな取組、若者に期待できる。(株)マルワ、三承工業(株)の実践に勇気をもらいました。 高校生の取組 交流会が今後の参考になった。 今回の意見交換で他の人から頂いた意見で自分では考えられなかった SDGs の方向性を見つけることができた。 災害に役立つものでもあることが理解できた。 地元にはすごい企業があることを知りました。まだまだいろいろな企業があるのではと思いました。 人力 人力で電気をつくる。 人力発電がすごい。 生徒も自分自身が SDGs の取組を行っていると実感できたと思います。 地域との活動をもっと活発にしたい。 地域連携 鳥を通じて地域とつながる。 発信の仕方など 発電することは、とても大変なことだとわかりました。 幅広い年代の方々に PR するには、その年代に合わせた PR のやり方を考えること。 ボランティアです。 弥富の鳥さんのことを知れた。 六次産業化、発信の仕方など

【参加者の感想等（自由記入）】

190613 ESD ダイアログ 福井	<ul style="list-style-type: none"> JC 福井ブロックにおける推進を期待する。 国際的開発目標の指標でもってハイレベルのチャレンジ目標が設定できると思う。 まずは理解してもらうことが大事なんだと感じました。
190808 ESD ダイアログ 金沢	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな方面、いろいろな立場からの多様な意見が聞けて良かった。 お世話してくださった方どうもありがとうございました。今後も取り組んでいくためのパワーがいただけました。 グルーピングを、行政と学校で分ける。さらに校種別にすると、互いに迷いや悩みを出し合えるメリットがあるのではないかと。 このまま推移すれば今後の地域、日本、世界が危うい。だから今、SDGs・ESD なんだということがわかりました。では具体的にどうしていけばいいのか、いろんな手立てを考えるためのヒントをいただいた意義のある研修でした。ありがとうございました。 ユネスコスクールに登録されているということ、ESD・SDGs に取り組んでいることを自分の言葉でまず説明できるようになりたいと思いました。もっと深く学び、子どもたちのためにより良い教育を目指していきたいです。ありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> • ワークショップの運営についてもっと整理した方がいい。参加者の階層は固定化していないか？ • 一人一人違うゴールであっていい。子供たちが自分のこととして考えられるように、まず土台となる知る活動をしてきたいと思いました。知ることで子供たち自身から課題を見つけてほしい。 • 遠い所まで来たかいはありました。今後の学級づくり、授業づくりを見直し、改善・進化させていくよい機会になりました。また、教師側の構えも子供を育てるためには非常に重要だと実感しました。 • 各地域（北陸）の活動のような問題点、課題が分かって良かったです。教員関係の私にとってはESDの研修会としていた方が良かったです。（ESDとSDGsでは視点が違うため） • 今日来てさせていただいて分かった事は学校で他の先生方に周知できるように取り組んでいきたいと思います。 • 子供が課題意識をもち、自分事として本気で活動すること。活動を振り返って価値ある活動だと子供も思えること。そんな活動ができるよう学校で先生方に伝えたいと感じた。多くの方の意見や実践を聞くことができてよかった。 • 資料に通しのページをふっていただけると参照しやすくなると思います。 • 事前に抱えている課題や問題を集約し、その具体的な解決に向かって深めることが必要。 • 人とのかかわり、自然とのかかわり、地域とのかかわり…子どもたちの願いをかなえるための教育として、大切にしていかなければと思いました。 • 他の学校の様々な取り組みを知ったり、SDGsについて今後どのように取り組んでいくとよいか少しわかった。遠くから来ている人がいるので終わりの時刻は守ってほしかった。 • 大変勉強になりました。将来を担う子どもたちがどう学んでいくべきかを考える良い機会だったと思います。是非また参加したいと思いました。 • 短い時間の中でたくさんのお話を聞いて刺激を受けました。資料は番号があると交流がもっとしやすいと思います。ありがとうございました。皆さんの思いはありますが、電車もあるので時間は守っていただきたいと思います。 • 中学校は多忙な中、SDGsの活動を進めることは簡単ではありませんが、その中でも生徒の意欲を引き出し、自ら課題を考えて活動することは生徒にとっては有効であり、達成感のあるものだと思います。できる限り計画を立てて、実践していきたいと思います。 • 熱意ある先生方とともに情報交換・共有をしながら、地域や学校での実践や取り組みへの思いにたくさん触れることができ大変学びの多い時間となりました。自校の生徒にとってどのような意義のある活動かを再度見直ししながら、今後の社会や人のあり方についても学び（視野）を深めつつ過ごしていきたいなあと感じました。講義+ディスカッションという流れも、皆さんのお考えや熱量に触れることができ、刺激をいただきました。集まる所にはその場と同じ思いの方が集まるということもまた再認識しつつ、心強く感じました。貴重な機会に参加をさせていただき感謝しております。ご準備等ありがとうございました。（広くご案内もありがとうございました。）P.S.今日は金沢市2030に向けての取り組みを拝聴できるのを楽しみに参りました。街づくりのための詳しいkeywordを知ることができ、（&資料もいただけて）嬉しかったです。ありがとうございました。 • 本校の子どもたちは、地元のことが大好きです。地域の発展について考える子を今後も育てていきたいと思っています。 • 話し合い、まとめる時間が短かった。
<p>191116 ESD ダイアログ 飯田</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ESD、SDGsをお茶飲話で語れるような、やさしい言葉を共有することが大切と思いました。 • 今現在の活動、取り組んでいることを改めて整理して考え、ESD、SDGsとの関連を意識づけする必要があると感じた。 • 時間が足りない。もっとじっくり話したかった。グループディスカッションは、もっと自由でも良いと思う。→しばられて、大事な話がとぎれる。 • 自分が今高等学校教育において必要なんじゃないかと思っているものが、まさにこれで、今日は様々なお話を聞いてとても興味深かった。 • 人材育成の視点をもっと根本から見つめて、学校・地域（←この表現があいまいさを助長しているような気がします。ここには保護者も含まれているし、ご近所の大人たちも含まれているはずですが、どこか他人事のように受け止められている感じがします。）の他、子どもたちの発達を見守る医師（特に乳幼児期の親に啓発できる小児科医）にも協力をあおげたら…と感じます。 • 背景が違う参加者が集まっているので、無理にワークをしなくても、テーマを決め意見交換などでよい気がします。せっかくなのでお互いの考えを出し合いたかった。

	<ul style="list-style-type: none"> • 人とのつながりができて、それが全てですね。 • 有意義な会をありがとうございました。宮崎県で唯一のユネスコスクールからの参加だったので、他校や他地域の取組を見れて参考になりました。真似できることを早速取り組んでいきます。 • 学校の中で ESD がなかなか定着していかないことに担当として悩むところがありました。少しずつ見えてきた。また、学校の果たす役割や学校の独自性（特色）という部分も難しさを感じていましたが、「地域資源の見える化とつなぐ化」という部分が見えてきたように思います。グループ・ワークでは、公民館の活動について考えさせてもらいました。普段、学校となかなかつなげれずにいるのも現状だと思いますので、公民館や市の考え方を聞きでき、ありがたい機会となりました。エコパークの教材化等についても、もう少し話し合えるとよかったですねとも思いました。
<p>191104 ESD 推進 フォーラム 名古屋</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ESD・SDGs の事を初めて知りました。 • ESD の発表や環境の取組も勉強できたので、とてもいい経験になりました。 • 今まであまり考えられなかった点から活動内容を見直すことができ、とても良い経験となりました。 • いろいろな高校生の活動がよくわかった。 • いろいろな人の意見を聞いてよかった。 • いろいろな高校の取組を知れて良かった。 • いろいろな話をきけてよかった。 • 各学校、いろいろな分野に取り組んでいてとても良いと思う。 • 環境破壊はずっと続いていると知っていましたが、環境を守る活動もたくさん行われていると初めて知りました。これからは環境を守るために貢献していきたいです。 • 今日は、最初はよくわからなかった内容だけど、最後はよくわかりました。 • 高校生が緊張しながら頑張って発表すること、考えること、とても素晴らしいと思いました。素晴らしい活力をありがとう。 • 高校生の方々の誠実な取組に好感がもてた。 • 大変有意義なフォーラムでした。ESD で若者が着実に成長していて頼もしく感じました。企業発表、グループワークもとても充実していました。どの人も活躍できました。 • 沢山の取組発表をきき、今日で色々なことを学ぶことができました。 • 他の学校がすごいなと思いました。 • 他の学校の活動、その他企業について知れてためになったと思いました。 • 他の学校の取組など、参考になる事が多くありました。 • ためになるイベントでした。 • 小さいことから始められると気付きました。 • とてもよかった。 • 普段関わることのできない様々な方々と話すことができ、良い刺激になりました。 • また参加したい。 • みんな詳しい内容ですばらしい。 • これだけ高校生が活動しているので、企業の発表は別の日にしてもらって、高校生中心で時間をとってすすめてもらったほうが充実したのでは。 • 次の予定が入ってしまい、途中で失礼いたします。最後まで参加できなくて残念でした。高校生、若い方達との交流ができず残念でした。 • 特にないです。ありがとうございました。 • 難しかったです。 • もっとグループワークの時間がほしいなと思いました。

(4) 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等

ア 全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

- 全国センターが実施する地域 ESD 拠点を対象にした年次アンケート（提出期限 4 月 12 日）について、提出期限時に回収状況を共有し、当センターへの訪問、連絡等のあった地域 ESD 拠点に対し、直接、アンケートへの協力依頼と提出督促のお願いを行った。
- 後援申請は次の通りとなっている。

【後援名義申請】

申請主体	申請日	申請行事		
		名称	開催日	開催場所
次世代エネルギーワークショップ推進委員会	8月9日	2019年度 次世代エネルギーワークショップ推進委員会	11月16日～17日	名古屋市立大学 滝子(山の畑)キャンパス
ESD コンソーシアム 愛知	8月22日	ユネスコスクール中部ブロック グッドプラクティスフォーラム	11月9日	中部大学 名古屋キャンパス
名古屋ユネスコ協会	9月2日	第6回ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会 "Today for Tomorrow"	12月14日	名古屋市立名東高等学校
錦二丁目まちづくり協議会	9月3日	錦二丁目 SDGs ネットワークフォーラム	10月23日	ホテル名古屋 ガーデンパレス
国際自然保護連合 日本委員会	9月4日	COP10 おりがみプロジェクト タイムカプセル開封記念イベント in 東山動植物園	11月16日	名古屋市東山動植物園 お花畑および動物会館 レクチャーホール
NPO 地域の未来・志援センター	11月28日	山川里海 情報交流会 & グリーン連合シンポジウム	2月8日	垂井町表佐地区まちづくりセンター
信州 ESD コンソーシアム	12月19日	信州 ESD コンソーシアム成果発表 & 交流会	2月1日	信州大学国際科学イノベーションセンター (AICS)
岐阜県ユネスコ協会	1月23日	第3回 ESD パスポート体験発表会	3月1日 ※開催中止	岐阜大学サテライトキャンパス

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止。

イ 地域 ESD 拠点登録支援等

- 今年度、計8団体が新たに地域 ESD 拠点に登録され、中部エリア全体として登録団体は計17団体になった。
- 各団体による登録申請手続きが行われた際には、団体からの問合せや全国 ESD センターからの登録照会などに対し、該当資料の送付、回答を行うなどの対応を行った。

【新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

中部 ESD 拠点 (RCE Chubu)	2019年7月登録
NPO 法人 地域の未来・志援センター	2019年8月登録
根羽村森林組合	2019年12月登録
NPO 法人大杉谷自然学校	2020年1月登録
NPO 法人エコプランふくい	2020年2月登録
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま	2020年2月登録
勝山市	2020年2月登録
富山ユネスコ協会	2020年3月登録

ウ 地域 ESD 拠点のニーズの把握

(ア) 地域 ESD 拠点へのヒアリング実施概要と結果

- 中部地域の地域 ESD 拠点3団体に対してヒアリングを行い、全国 ESD センターの実施するアンケート結果を踏まえ、地域が求めるニーズの把握を行った。

地域 ESD 拠点登録団体	実施日	ヒアリング項目
豊橋ユネスコ協会	7月16日	<ul style="list-style-type: none"> ● ESD 活動の経緯と現状 ● 拠点登録の経緯と効果 ● 他の拠点や団体との交流や連携 ● 今後の ESD 推進ネットワークのあり方
(一社) 日本体験学習研究所	8月31日	
(一社) ネクストステップ研究会	11月23日	

【ヒアリング結果】

- 環境省の後ろ盾はブランド力があり ESD 活動の展開に有効。
- 既存の活動に加えた拠点登録についての新たなメリットは感じていない。
- 中央の情報など発信をもっとしてもらいたい。交流、人材派遣・紹介などに期待している。
- 子どもも大人も ESD の更なる展開が社会的に重要。

地域ESD拠点登録団体との連携、団体への支援について

地域ESD拠点とのネットワーク強化に向けて
現場ターゲット別のESD活動と支援の在り方(地域ESD拠点との連携の強化を見据えて)

- ESDの拠点となりうる団体は？
様々な活動団体のESD拠点機能化、登録は後回しでも機能を発揮してもらえればいい。
- その活動団体の得意分野は何か？
どんな対象に何をしているのか。
- その得意分野にとってのニーズは何か？
弱みは何か、何を支援すればよいか。
- その団体が他の主体と連携することで何か生み出せるか？

(事務局イメージ)

案1:拠点メンバーをメイン対象者とした「身近なESD問題ワークショップ」

案2:最新情報のメール配信(全国センターからの配信、既存メルマガと重複しない情報)

案3:登録拠点と連携したESDダイアログ、SDGsセミナー等の開催

21

(イ) 各団体のヒアリング結果

① 豊橋ユネスコ協会（愛知県豊橋市）

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング 豊橋ユネスコ協会 1/2

日時：
2019年7月16日（火）
10：15～12：00
場所：
愛知大学豊橋キャンパス記念館2F
ヒヤリング対象：
会長 渡邊 正（愛知大学名誉教授）

参考：全国センターアンケート回答（H30コメント）

- 重視している取り組み
戦争遺跡マップ、平和学習出前授業
- 拠点の課題、改善提案
ESD拠点の理解、認知を高めるための広報活動
- Web好事例
メディアより草の根的な個別活動の方が有効
- 要望
社会一般のESDの理解と普及が重要

ヒヤリング結果

○ESD活動の経緯と現状について

ESD名古屋会議時に教育長会会長であった豊橋市の主導で全小中学校がユネスコスクールに加盟した。当時戦争遺跡マップを用いた平和学習出前授業（年12回）を実施していた当協会が活動に協力。これを背景にESDを推進。近年は東三河ESD・ユネスコフォーラム&ESD交流会を開催し、子ども対象のアクティブラーニングの実践拡大に向け人的・情報交流に努めている。

ESDは「問題解決探求能力」の育成で、そのために「アクティブラーニング」が重要だが、最大の問題は教員のスキル、時間、余裕が足りないことと考えている。

また協会の会員の勉強会を続けており、最近注目している大分県教委、大牟田市教委の事例は非常に重要。これらの上記の問題について、教委、学校、地域が一体となって取り組んでいる。

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング 豊橋ユネスコ協会 2/2

ヒヤリング結果

○拠点登録の経緯と効果について

ESD推進ネットワーク構築にあたり、環境省担当者のヒヤリングがあり、実践的な活動にメリットがあれば参加すると伝えた。制度構築に伴い登録。しかし枠組みのみで中身が伴っていないと思えない。特に登録のメリットは感じていない。ネットワークの動きを静観中。

○他の拠点や団体との交流や連携について

当協会は情報、人脈のパイプ作りの一環として拠点登録に期待している。

○今後のESD推進ネットワークのあり方について

学校教育でのESDの推進には、学校外の地域の人的、情動的な連携等が必要だが、現場の敷居が高いと言われる。理由は双方にあり、学校現場は多忙で余裕がなく教員の視野も狭くなりがちなこと、連携主体（ボランティアなど）が自分のことばかりで学校の事情を十分配慮できないことである。

学校教育ESD支援のために地域のコーディネーター、プロデューサーを配置することが有効と考えられるが人材の質が難しい。視野を広く持ち、ESDの本質を理解し、学校の要望に応えられる能力が必要となる。教員OBには過剰な期待は抱かないほうがよい。

こうしたコーディネーター、プロデューサーを育成する、地域ESDプロディース研修会（仮！）の開催などで社会人OBを再教育することも考えられる。受講者の中から一人でも二人でも実践者が現れれば成功ではないか。

②（一社）日本体験学習研究所（愛知県名古屋市）

地域ESD活動推進拠点ヒヤリング 日本体験学習研究所 1/2

日時：

2019年8月31日（土）

12：15～13：00

場所：ライオンズマンション原102
HCC内

ヒヤリング対象：代表理事・所長
津村 俊充（南山大学名誉教授）

参考：全国センターアンケート回答（H30コメント）

○重視している取り組み

人と人との関わり方、一人一人を大切にする体験学習の視点・スキルをESD実践者に体得してもらうこと

○拠点の課題、改善提案

集客が最も課題。共通に案内できる実践者SNSコミュニティがあれば発信やコミュニケーションがとりやすい。

ヒヤリング結果

○ESD活動の経緯と現状について

1990年代後半に津村代表（教育学の研究者）が環境省の事業の中でキープ協会でも環境学習の仕事をしたことが発端となっている。ここでは体験の中から学ぶことがベースとなっており、2000年代からインタープリタートレーニングの研究と実践を積み重ねてきた。研究所は2006年設立。2015年一般社団化。2017年～モリコロ基金助成を受け「ESDスペシャリスト育成プロジェクト」（7回コース）を実施。これまで23人のスペシャリストを養成してきた。

○拠点登録の経緯と効果について

キープ協会の仕事をしたときのつながりでESD活動支援センター長の阿部先生から話があったことがきっかけで登録。ESD拠点としてのメリットはこれからだと考えている。